取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

HIACE

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

1
2
3
4
5
6

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

6 車両仕様

さくいん

1
2
3
4
5
6

外観

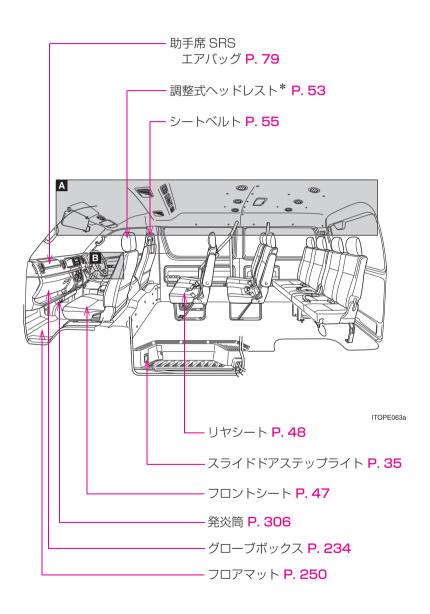
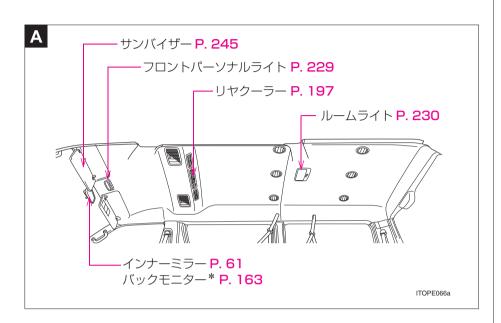
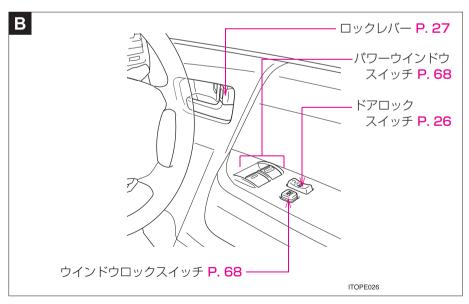
アンテナ P. 227
フロントワイパー P. 148
ボンネット P. 267
補助ミラー P. 66
アウターミラー P. 63
スライドドア P. 30
給油口 P. 72
ITOPE039c
方向指示灯※ P. 128
フロントフォグライト* P. 146
車幅灯※ P. 143
ヘッドライト（ロービーム）※ P. 143
ヘッドライト（ハイビーム）※ P. 143

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：ハロゲンヘッドライト装着車は装着位置・意匠が異なります。（→P. 272）

助手席 SRS
エアバッグ P. 79
調整式ヘッドレスト* P. 53
シートベルト P. 55
A
B
ITOPE063a
リヤシート P. 48
スライドドアステップライト P. 35
フロントシート P. 47
発炎筒 P. 306
グローブボックス P. 234
フロアマット P. 250

A

サンバイザー P. 245
フロントパーソナルライト P. 229
リヤクーラー P. 197
ルームライト P. 230
インナーミラー P. 61
バックモニター* P. 163

ITOPE066a

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

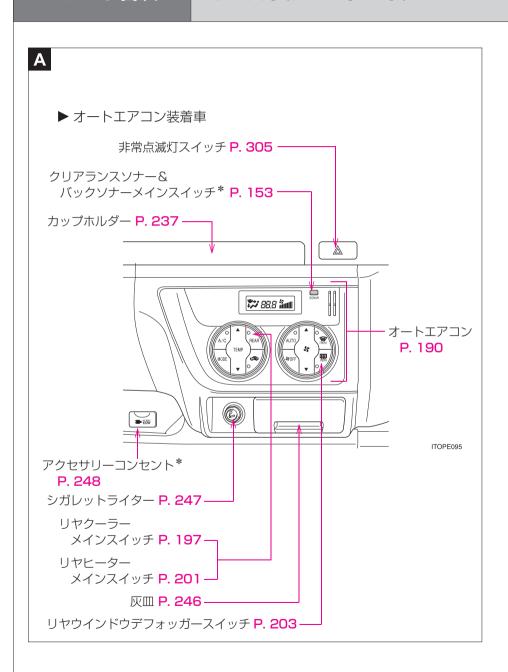
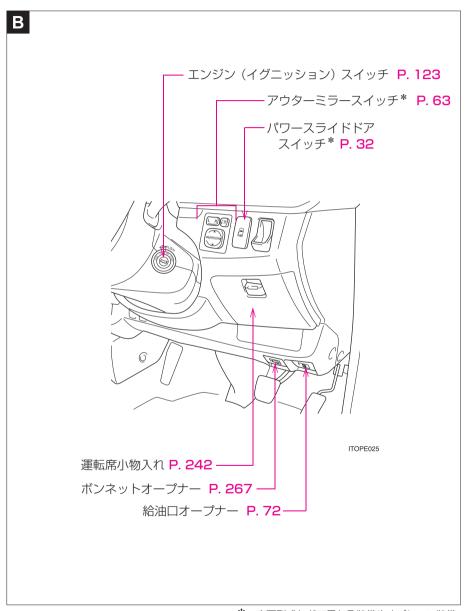
インストルメントパネル

A

▶ マニュアルエアコン装着車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A
▶ オートエアコン装着車
非常点滅灯スイッチ P. 305
クリアランスソナー＆
バックソナーメインスイッチ＊ P. 153
カップホルダー P. 237
オートエアコン
P. 190
SONAR
A/C
REAR
TEMP
MODE
AUTO
FRONT
OFF
ITOPE095
アクセサリーコンセント＊
P. 248
シガレットライター P. 247
リヤクーラー
メインスイッチ P. 197
リヤヒーター
メインスイッチ P. 201
灰皿 P. 246
リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 203

B

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数
- アクセルの操作状況
- ブレーキの操作状況
- 車速
- シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

・ エアバッグ作動に関する情報
・ エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

・ お車の使用者の同意がある場合
・ 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター･発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 101）をお読みください。

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

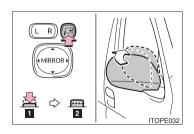
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

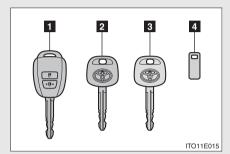
操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す・まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。
エンジンイモビライザーシステム（→P. 76）装着車のキーには、信号発信機が内蔵されています。

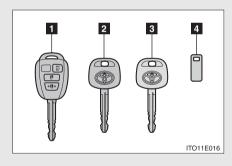
▶ パワースライドドア非装着車

1 ワイヤレスリモコン付きマスターキー

ワイヤレス機能の作動（→P. 23）

2 マスターキー（黒色）

3 サブキー（灰色）

4 キーナンバープレート

▶ パワースライドドア装着車

1 ワイヤレスリモコン付きマスターキー

- ワイヤレス機能の作動（→P. 23）
- パワースライドドアの開閉（→P. 31）

2 マスターキー（黒色）

3 サブキー（灰色）

4 キーナンバープレート

知識

■エンジンイモビライザーシステム装着車は

マスターキー（黒色）を紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、紛失しないように注意してください。

■キーの構成について

車の仕様により、ここで説明している内容とキーの枚数・組み合わせが異なる場合があります。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 337）

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠注意

■**キーの損傷・故障を防ぐために**

●キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。

●キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

●キーを超音波洗浄機などで洗浄しないでください。

●キーは、不用意に分解しないでください。

■**キーについて**

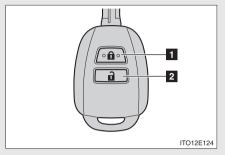
ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

●電池交換以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。

●必ず日本国内でご使用ください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。また、パワースライドドア装着車では、パワースライドドアを開閉することができます。

▶ パワースライドドア非装着車

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

▶ パワースライドドア装着車

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する
3 パワースライドドアを開閉する（約 1 秒押し続ける）

知識

■作動の合図

ドア：非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

パワースライドドア*：ブザーで知らせます。
（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■作動条件について

- ●周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約 1m まで近付いて操作してください。
- ●エンジン スイッチにキーが挿し込まれている場合は、ワイヤレスリモコンが作動しません。

■パワースライドドア*について

次のときは、ワイヤレスリモコンのスイッチを押してもパワースライドドアが作動しません。

- ●パワースライドドアメインスイッチ（→P. 32）が OFF になっているとき
- ●スライドドアが施錠されているとき（→P. 30）

■電池の消耗について

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 296）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■機能が正常に働かないおそれのある状況

●次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

・近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
・無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
・複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
・ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
・近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
・ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

●金属を含むフィルムや、金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）をバックドアガラスに貼り付けると、車両後方からの操作時に、作動可能距離が短くなる場合があります。

■電池が切れたときは

→P. 296

■パワースライドドア*の反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切りかわります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切りかわりません。

警告

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

→P. 39

■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

→P. 40

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

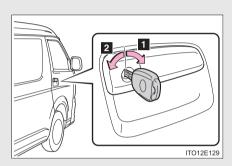
フロントドア

ワイヤレス機能・キー・ドアロックスイッチなどを使って施錠・解錠できます。

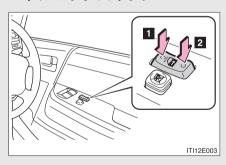
■ ワイヤレス機能

→P. 23

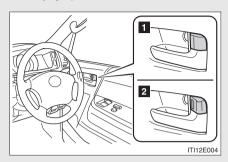
■ キー

キーを操作すると、ドアが次のように作動します。

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ロックレバー

1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドア・助手席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

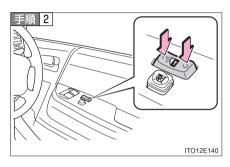
オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、エンジン　スイッチを“ON”にする（その後 10 秒以内に手順 2 を行う）

手順 2 シフトレバーを P または N に入れ、ドアロックスイッチの LOCK 側または UNLOCK 側を約５秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	LOCK
シフト連動オートアンロック		UNLOCK
車速感応オートロック	N	LOCK
運転席ドア連動オートアンロック		UNLOCK

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

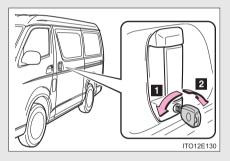
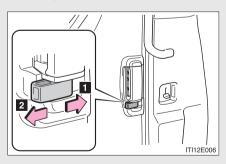
スライドドア

スライドドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。また、パワースライドドア装着車は、ドアハンドルやワイヤレス機能などを使ってスライドドアを自動開閉することもできます。

■ スライドドアの施錠・解錠

▶ ワイヤレス機能
→P. 23

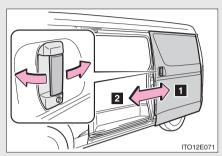
▶ ドアロックスイッチ
→P. 26

▶ キー

1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

▶ ロックレバー

1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてスライドドアを閉じます。

■ スライドドアの開閉

車外または車内のスライドドアハンドルを操作します。

1 開く

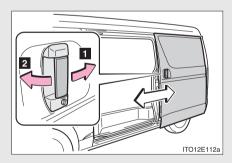
2 閉じる

ロックが解除されるまで、確実にドアハンドルを引きます。

■ スライドドアの自動開閉（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチ（→P. 32）が ON のとき、次の方法でスライドドアを自動開閉できます。

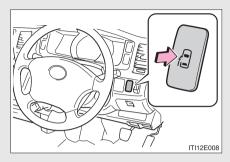
▶ スライドドアハンドル

車外または車内のスライドドアハンドルを操作します。

1 ドアを開くには、ブザーが鳴るまでドアハンドルを開方向に引く

2 ドアを閉じるには、ブザーが鳴るまでドアハンドルを閉方向に引く

開閉作動中、ドアハンドルを逆方向に操作すると、反転作動します。ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

▶ パワースライドドアスイッチ

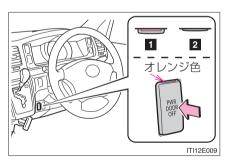
ITI12E008

スイッチを約 1 秒押し続ける

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

▶ ワイヤレス機能
→P. 23

パワースライドドアメインスイッチ（パワースライドドア装着車）

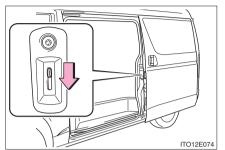
パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、スライドドアの自動開閉が可能になります。

ITI12E009

1 ON

スイッチ上部にオレンジ色のマークが見えています。

2 OFF

チャイルドプロテクター*

ITO12E074

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。

知識

■スライドドアイージークローザー*

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジン スイッチの位置に関係なく作動します。
- パワースライドドア装着車では、パワースライドドアメインスイッチが OFF のときでも作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーの作動中でも、車内または車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバー、またはチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く)

■チャイルドプロテクター*使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。
スライド式リヤサイドガラス装着車で、万一、車内から開ける場合は、リヤサイドガラスを開けて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■パワースライドドアの作動条件（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。（エンジン スイッチの位置に関係なく使用できます）

●スライドドアが解錠されているとき（閉作動を除く）

●エンジン スイッチが“ ON ”のときは上記に加え、車速が 3km/h 未満かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

●作動条件を満たしていても、エンジン スイッチ が“ ON ”のときは、ワイヤレスリモコンで開閉することはできません。

■パワースライドドアの作動について（パワースライドドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。

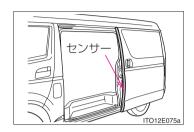
●作動条件を満たしていないときは、自動開閉できません。（その場合、手動で開閉できます）

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から反転作動します（連続して 2 回異常を感知すると、ブザーが鳴り、自動開閉できなくなります）。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 20cm 手前の範囲で異常を感知した場合は、その位置で作動を停止します。その場合は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、スライドドアをいったん手動で全閉、または全開にしてから、操作し直してください。

●パワースライドドアの自動開閉中に反転操作をすると、連続２回まで反転作動し、３回目は反転作動を停止します。その場合は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にし、スライドドアをいったん手動で全閉、または全開にしてから、操作し直してください。

■パワースライドドアを開けたままバッテリー端子を取りはずしたときは（パワースライドドア装着車）

バッテリー端子を再接続しても、パワースライドドアを自動開閉できなくなります。その場合は、スライドドアを手動でいったん全閉にすると、自動開閉が可能になります。

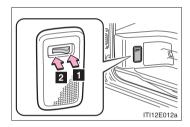
■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

スライドドアを自動で閉めているときに、センサーが異物の挟み込みなどを感知すると、スライドドアが反転作動し、全開位置で自動停止します。

■スライドドアステップライト

スイッチを ON にしておくと、スライドドアまたはバックドアを開けたときに点灯します。

1 ON

2 OFF

警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず着用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中は車内のドアハンドルを操作しない
- ●お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする（チャイルドプロテクター装着車）

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

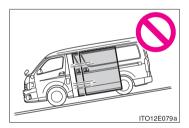
■**スライドドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●スライド式リヤサイドガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。(スライド式リヤサイドガラス装着車)

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

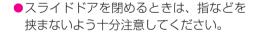
●半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。

●坂道ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。

●下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

警告

■スライドドアイージークローザー*について

ITO12E085

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●パワースライドドア装着車では、パワースライドドアメインスイッチが OFF であってもイージークローザーが作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバー、またはチャイルドプロテクターが施錠側のときは、イージークローザー作動中に車内のドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- ●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- ●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●スライドドアが自動で開閉している途中でパワースライドドアメインスイッチを OFF にしたり、作動条件（→P. 34）が満たされなくなったりすると、ブザーが鳴って作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- ●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- ●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動操作に切りかわり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
  - ・自動作動中、障害物に干渉したとき
  - ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジン スイッチを “ ON ” にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- ●タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。
  OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
- ●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

警告

■**挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■スライドドアについて

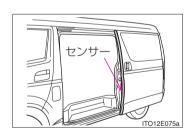
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

■スライドドアイージークローザー*について

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアのセンサーについて（パワースライドドア装着車）

センサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

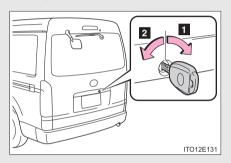
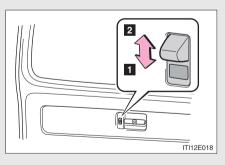
バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

▶ ワイヤレス機能
→P. 23

▶ ドアロックスイッチ
→P. 26

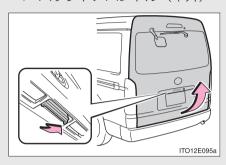
▶ キー

1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

▶ ロックレバー

1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

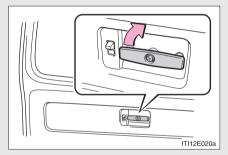
車外から施錠するときは、ロックレバーを施錠側にしてバックドアを閉じます。

■バックドアを開けるには

▶バックドアハンドル（車外）

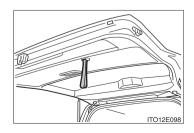
ITO12E095a

バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる

▶バックドアハンドル（車内）

ITI12E020a

バックドアハンドルを右にまわして、バックドアを押し上げる

知識

■バックドアストラップ

ITO12E098

バックドアを閉めるときは、バックドアストラップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

警告

■**走行中の警告**

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージスペース、またはシートをスペースアップした場所※には、絶対に人を乗せて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は車内のドアハンドルを操作しないでください。
バックドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

※スペースアップシート装着車のみ

■**お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージスペース、またはシートをスペースアップした場所※でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

※スペースアップシート装着車のみ

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

ITO12E102

ITO12E105

●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

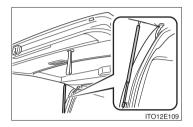
●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⚠注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

ITO12E109

- ●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ●ロッド部を軍手などでふれない
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアを操作するときは

車内のドアハンドルや、バックドアの下端に付いているロック部品などをつかんで、バックドアを操作しないでください。ドアハンドルやロック部品などが破損するおそれがあります。

フロントシート

1 前後位置調整※

2 リクライニング調整

※助手席は車種により固定式になります。また、シートの意匠は車種により異なります。

⚠ 警告

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

■ リクライニング調整

ITO13E126

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かす

■ アームレスト*

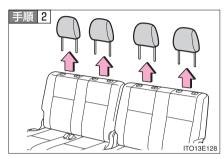
ITO13E171

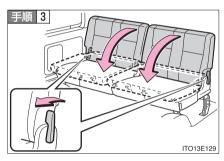
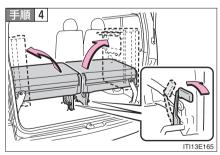
手前に倒して使用します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

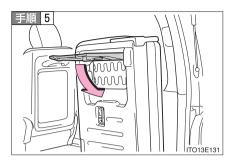
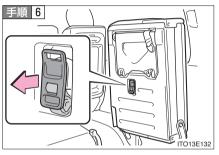
スペースアップシート*

■ スペースアップするときは

手順 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける

ヘッドレストを取りはずす

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。(→P. 53)

レバーを引いて背もたれを前に倒す

ロック解除レバーを動かしてシート脚部のロックを解除し、シート全体を窓側に起こす

シートを起こしたあとは、手でしっかりと支えてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

シート脚部を折りたたむ

シート固定バンドを取り出す

プレートを手前に引いて、固定バンドを取り出します。

プレートをフックに掛けてから、バンドの端を引いてたるみをなくし、シートを確実に固定する

バンドの端をマジックテープで確実に固定します。

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

■ もとにもどすときは

スペースアップしたときと逆の手順で操作を行います。

知識

■スペースアップシート*について

前倒しから起こした状態で、レバーを前側に引きながら後方に倒すと、背もたれを 3 段階うしろに倒すことができます。

警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

■スペースアップシート*について

スペースアップシートを操作するときは、次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- スペースアップして広げた場所に人を乗せて走行しない
- スペースアップして広げた場所にお子さまが入らないよう注意する
- スペースアップ操作をしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■スペースアップシート*をもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後・上下に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトを挟み込まないようにする
- ヘッドレストをもとどおりに取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

調整式ヘッドレスト*

解除ボタン

ITI13E007

1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

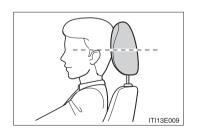
知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

ITI13E008

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

ITI13E009

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

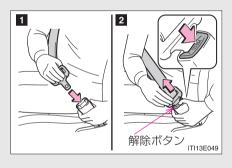
ITI13E047

- 肩部ベルトを肩に十分かける

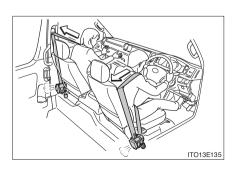
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

■ 着け方・はずし方

ITI13E049

1. ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
2. ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

シートベルトプリテンショナー（フロントシートベルト）

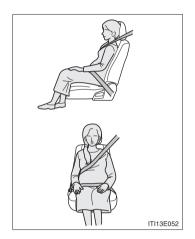
ITO13E135

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 55)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 101)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 55)

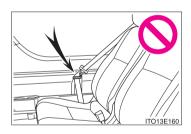
■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

- シートベルトハンガーにかかった状態でシートベルトを使用しない

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

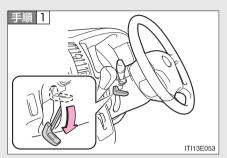
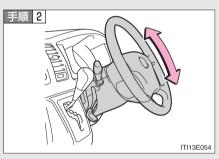
■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート·バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

■走行中の警告

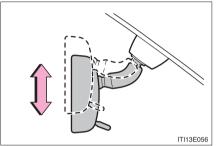
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

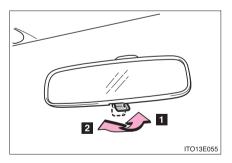
インナーミラー

座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

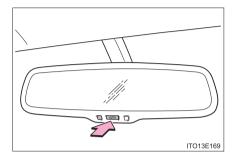
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

1 通常使用時

2 防眩時

▶ 自動防眩ミラー

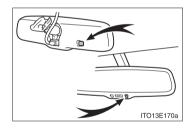
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切り替えON/OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

エンジン スイッチを“ ON ”にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。

知識

■センサーの誤動作防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤操作を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。

警告

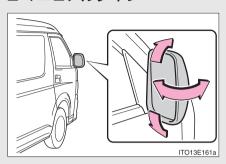
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アウターミラー

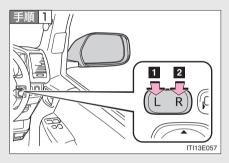
■ マニュアルタイプ

ITO13E161a

ミラー全体を手で動かして調整する

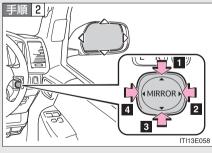
調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。

■ 電動タイプ

スイッチで鏡面の角度調整をします。

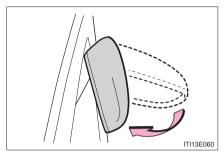
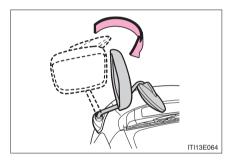
ITI13E057

調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

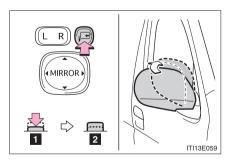
1 左
2 右

ITI13E058

ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

1 上
2 右
3 下
4 左

アウターミラーを格納するときは

▶ マニュアルタイプ

運転席側：手で後方に押して格納する

助手席側：手で前方に押して格納する

▶ 電動タイプ

ボタンを押してアウターミラーを格納する

1 格納状態

2 復帰状態

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■アウターミラーの作動条件（電動アウターミラー装着車）

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

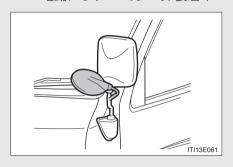
■ミラーが動いているときは（電動アウターミラー装着車）

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

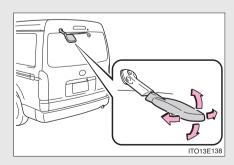
補助ミラー

■ フロントアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、車両前面を確認するときに役立ちます。

▶ 電動アウターミラー非装着車

▶ 電動アウターミラー装着車

■ リヤアンダーミラー※

後退時の視界確保に貢献します。

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。

※車種により形状が異なります。

⚠ 注意

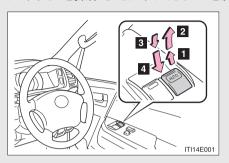
■補助ミラーについて

●補助ミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

●車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー・アウターミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラス（運転席・助手席）を開閉できます。

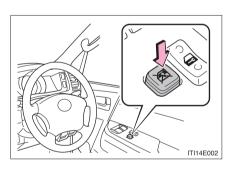
スイッチを操作して、ドアガラスを次のように動かします。

1 閉める

2 自動全閉（運転席のみ）※

3 開ける

4 自動全開（運転席のみ）※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■エンジン OFF 後の作動（運転席ドアガラスのみ）

エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■バッテリーを再接続したときは

運転席ドアガラスの自動開閉や挟み込み防止機能などが作動しなくなります。
パワーウインドウを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

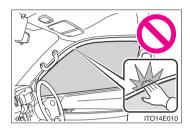
手順 1 半分まで運転席のドアガラスを開ける

手順 2 スイッチを引き上げて運転席のドアガラスを全閉し、そのままスイッチを 1 秒間保持する

初期設定が完了すると、スイッチ上の“ AUTO ”の文字が点滅から点灯にかわります。

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

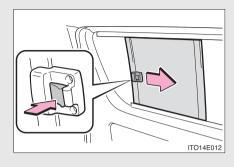
■ **挟み込み防止機能（運転席ドアガラスのみ）**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ **ドアガラスを開閉するときは**

次のことをお守りください。

- 運転席スイッチと助手席のスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

スライド式リヤサイドガラス*

開けるときは、ノブを押してロックをはずし、ガラスをスライドさせる

閉めるときは、“カチッ”と音がするまでガラスをスライドさせ、確実にロックされたことを確認してください。

警告

■スライド式リヤサイドガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤサイドガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、リヤサイドガラスの操作をさせないでください。
  リヤサイドガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■給油する前に

すべてのドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

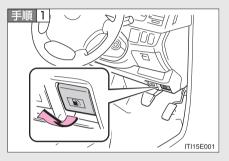
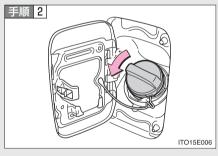
■給油口の開け方

手順 1

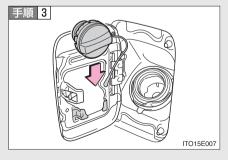
ITI15E001

オープナーを引いて、給油口を開ける

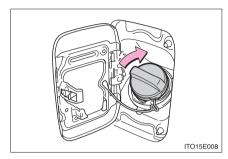
手順 2

ITO15E006

キャップをゆっくりまわして開ける

手順 3

ITO15E007

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

ITO15E008

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下) も使用することができます。

■燃料タンク容量（参考値）

70 L

⚠ 警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
  キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

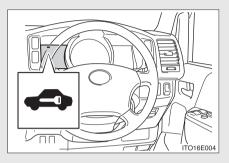
注意

■**給油するときは**

指定のガソリン・軽油を使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

キーをエンジン スイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたマスターキー、またはサブキーをエンジン スイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

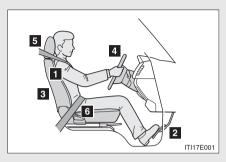
●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P. 47）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→P. 47）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→P. 47）

4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→P. 60）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする※（→P. 53）

6 シートベルトが正しく着用できる（→P. 55）

※調整式ヘッドレストのみ

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。※
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

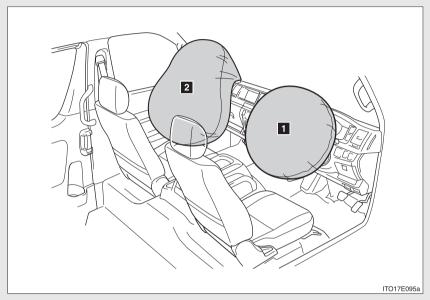
※前後位置が固定式のシートを除く

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

1 運転席 SRS エアバッグ
(運転者の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 助手席 SRS エアバッグ
(助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき

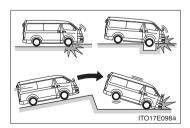
●SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合

・もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

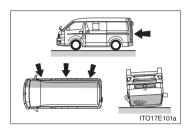
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、SRS エアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

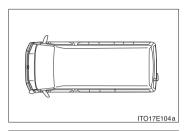
■SRS エアバッグが作動しないとき

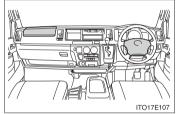
SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

■ **トヨタ販売店に連絡が必要な場合**

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

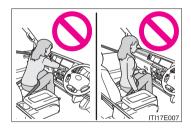
ITO17E104a

●SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITO17E107

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

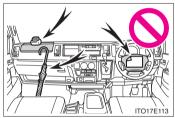
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

⚠警告

■SRS エアバッグについて

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ダッシュボード･ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード周辺の修理・取りはずし・改造
- ●フロントフェンダー・フロントバンパーなどの修理・改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0^+　：13kg まで
グループ Ⅰ　：9 ～ 18kg
グループ Ⅱ　：15 ～ 25kg
グループ Ⅲ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ITO17E145

ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

▶ チャイルドシート

ITO17E146

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、I に相当

▶ ジュニアシート

ITO17E147a

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ GL 以外

質量グループ	着席位置（または他の場所）								
	フロントシート	リヤシート							
	助手席	1列目シート		2列目シート			3列目シート		
		運転席側	助手席側	運転席側		助手席側	運転席側		助手席側
				窓側	内側		窓側	内側	
0（10kgまで）	×	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3
0^+（13kgまで）	×	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3
Ⅰ（9～18kg）	前向き UF※1 うしろ向き ×	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3
Ⅱ（15～25kg）	UF※1	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3
Ⅲ（22～36kg）	UF※1	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3

● 表に記入する文字の説明

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」、「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L3：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※1：フロントシートの背もたれを直立状態にしてください。
前後位置が調整可能なシートは、フロントシートをいちばんうしろに下げてください。
調整式ヘッドレスト装着車でジュニアシートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

※2：子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

※3：リヤシートの背もたれを直立状態にしてください。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

▶ GL

質量グループ	着席位置（または他の場所）									
	フロントシート	リヤシート								
	助手席	1列目シート		2列目シート		3列目シート				
		運転席側		運転席側		運転席側		助手席側		
		窓側	内側	窓側	内側	窓側	内側	窓側	内側	
0 （10kgまで）	×	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	
0^+ （13kgまで）	×	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	L1※3	
Ⅰ （9～18kg）	前向きUF※1 うしろ向き ×	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	L2※3	
Ⅱ （15～25kg）	UF※1	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	
Ⅲ （22～36kg）	UF※1	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	L3※2,3	

● 表に記入する文字の説明

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」、「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L3：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

※1：フロントシートの背もたれを直立状態にしてください。
前後位置が調整可能なシートは、フロントシートをいちばんうしろに下げてください。
ジュニアシートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

※2：子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。

※3：リヤシートの背もたれを直立状態にしてください。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0^{+}（13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

▶ GL 以外

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置	
			助手席側リヤシート	
			2 列目シート	3 列目シート
キャリコット	F	ISO/L1	×	×
	G	ISO/L2	×	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※	IL1 ※
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※	IL1 ※
	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
	B	ISO/F2	IUF ※	IL2 ※
	B1	ISO/F2X	IUF ※	IL2 ※
	A	ISO/F3	IUF ※	IL2 ※
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×	×

● 表に記入する文字の説明

(1) サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正　NEO　G-Child　ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正　NEO　G-Child　ISO tether」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※：子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。
リヤシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒してください。
倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こしてください。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

▶ GL

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置	
			運転席側リヤシート	
			1 列目シート	2 列目シート
キャリコット	F	ISO/L1	×	×
	G	ISO/L2	×	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※	IL1 ※
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※	IL1 ※
	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
	B	ISO/F2	IUF ※	IL2 ※
	B1	ISO/F2X	IUF ※	IL2 ※
	A	ISO/F3	IUF ※	IL2 ※
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×	×

● 表に記入する文字の説明

(1) サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正　NEO　G-Child　ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正　NEO　G-Child　ISO tether」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※：子供専用シートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずしてください。
リヤシートの背もたれを子供専用シートが搭載できるところまで倒してください。
倒した状態で子供専用シートを搭載し、安定するところまで背もたれを起こしてください。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO baby	準汎用
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO baby	準汎用
I（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	準汎用
I（9 ～ 18kg）	B1	ISO/F2X	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	準汎用
I（9 ～ 18kg）	A	ISO/F3	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 88, 90）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 92, 94）を確認して、適切なシートを選択してください。

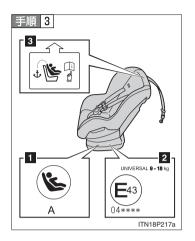
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0^{+}」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0^{+}」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

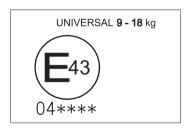
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 96）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

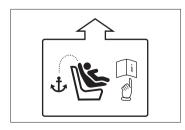
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

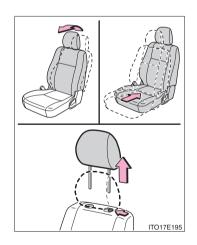
UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 102）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート（B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、調整が可能なシートは助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

●ジュニアシートを取り付ける際は、ヘッドレストをはずす（調整式ヘッドレスト装着車）

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

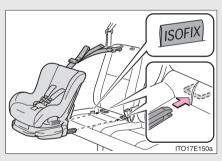
■子供専用シートを使用しない場合

- ●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。
取り付け方法は、必ず商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

※ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用する場合は、取り付け装置が装着されたシートのみ

シートベルトによる取り付け(→P. 102)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 104)

下記のシートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

▶ GL 以外

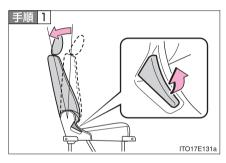
2 列目・3 列目リヤシート
(共に助手席側のみ)

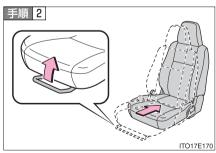
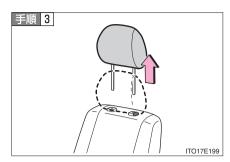
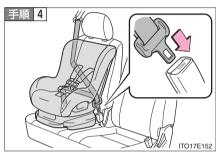
▶ GL

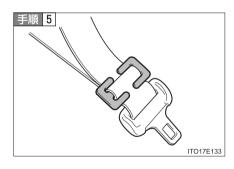
1 列目・2 列目リヤシート
(共に運転席側のみ)

トップテザーアンカー
(→P. 104)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはチャイルドシート固定専用バー装着席のシートクッション後方に装備されています。

シートベルトで固定する

背もたれの角度を調整する

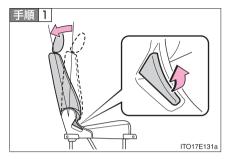
レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→P. 47、48)

前後位置の調整が可能なシートは、位置をいちばんうしろにする

調整式ヘッドレスト装着車でジュニアシートを取り付ける際は、ヘッドレストを取りはずす

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定機構が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

■ 子供専用シートの取り付け方

手順 1

ITO17E131a

背もたれの角度を調整する

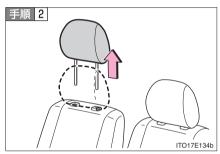
レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→P. 48)

手順 2

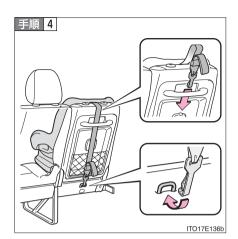
ITO17E134b

ヘッドレストを取りはずす

手順 3

ITO17E135c

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの後方にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトは、背もたれとアシストグリップのあいだを通してください。※

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

※背もたれの背面にアシストグリップが装着されているシートのみ

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、ハイエース指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）のみ取り付けることができます。チャイルドシートの選択にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、チャイルドシートがしっかり固定されず、事故の際などに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ITO17E193

・テザーベルトは必ず背もたれとアシストグリップのあいだを通す
(背もたれ背面にアシストグリップが装着されているシートのみ)

ITO17E194

・カップホルダーを格納し、収納ポケット内にある荷物を取り出しておく
(背もたれ背面にカップホルダーが装着されているシートのみ)

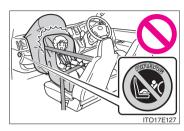
●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席の前後位置調整が可能な車両の場合、助手席に前向きにチャイルドシートを取り付けるときには、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

警告

■**チャイルドシートを使用しないときは**

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→P. 102, 104）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、車室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージスペース、またはシートをスペースアップした場所※に収納し、しっかりと固定しておいてください。

※スペースアップシート装着車のみ

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. さまざまな状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 123

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 126）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 129）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 126）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 129）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 126）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。（→P. 319）

手順 4 エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■雨の日の運転について

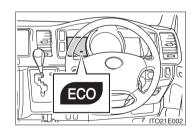
●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトポジションが D 以外のとき

●車速が約 100km/h 以上のとき

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスやスライド式リヤサイドガラス*などを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。
すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 345 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 126)

●走行中はハンドル・シート・アウターミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また 4WD 車でも、この車は本格的なオフロード走行を目的とした車両ではありません。

警告

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**すべりやすい路面を運転するときは**

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ **ブレーキをかけるときは**

● ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

● ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

● 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

● ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ **万一脱輪したときは（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を制御する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 318 を参照してください。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- 電動ファンシステム
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

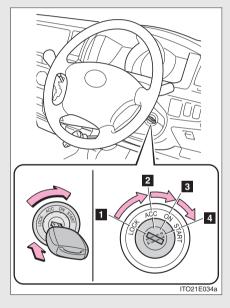
■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジン スイッチを“ START ”の位置にまわす

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ

1 “ LOCK ”（OFF）

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ ACC ”

シガレットライターなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

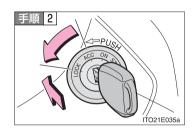
4 “ START ”

エンジンが始動できます。

知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2

キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 76)

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジン スイッチを " LOCK " にしないでください。
緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には " ACC " にしてください。
ただし、緊急時以外は走行中にエンジン スイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

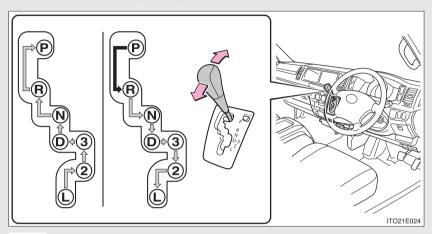
エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを " ACC " または " ON " にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方

← エンジン スイッチが"ON"の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
3	坂道走行
2	下り坂走行
L	急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 336

■AI-SHIFT について

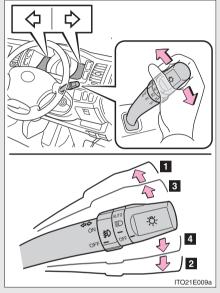
AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに、自動的に作動します。

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

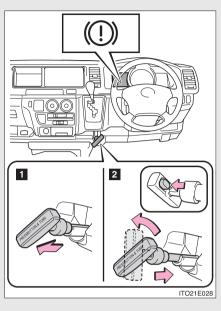
知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

2 パーキングブレーキを解除するには、レバー裏側にあるボタンを押しながら左にまわし完全に奥までもどす

知識

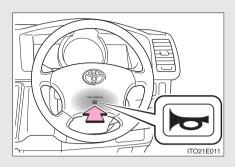
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 178)の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

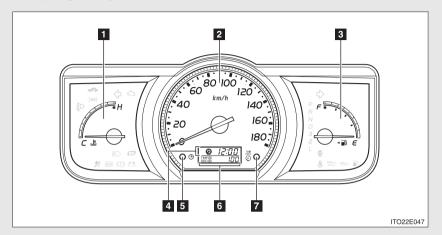
ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。（→P. 60）

計器類

▶ アナログメーター

1 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 時計

時刻を表示します。

5 時計調整ボタン

時刻を調整します。(→P. 136)

6 オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示

- オドメーター

　走行した総距離を表示します。

- トリップメーター

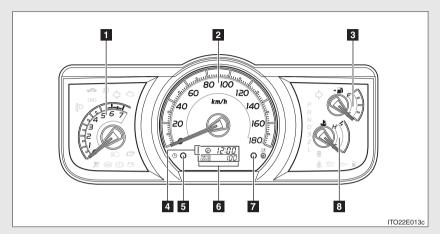
　リセットしてからの走行距離を表示します。
　区間距離は、トリップＡ·トリップＢの２種類で使い分けることができます。

- メーター照度調整表示

　メーター照度を調整できます。

7 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示の切りかえができます。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が０にもどります。
（→P. 135）

▶ オプティトロンメーター

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 時計

時刻を表示します。

5 時計調整ボタン

時刻を調整します。(→P. 136)

6 オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップＡ･トリップＢの２種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整表示

メーター照度を調整できます。

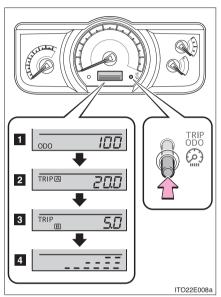
7 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示の切りかえができます。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が０にもどります。
(→P. 135)

8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

1 オドメーター

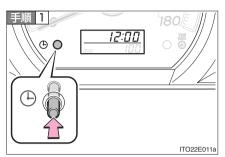
2 トリップメーター A※1

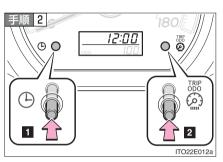
3 トリップメーター B※1

4 メーター照度調整表示※2
（アナログメーターは、車幅灯点灯時のみ表示されます）

※1 押し続けると 0 にもどります。

※2 押し続けると照度を調整できます。

時計

時間調整ボタンを押し続けて、時刻表示を点滅させる

表示が点滅しているあいだ、時間を設定できます。

時間調整ボタン／表示切りかえボタンを押して時間を設定する

1 時間を進める

2 時間をもどす

ボタンを押し続けると、早送り／早もどしされます。

手順 3 時間の設定後、約 5 秒以上そのままにして設定を確定する

点滅状態が解除され、現在時刻の表示になります。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■メーター照度の調整について

▶ アナログメーター
ライトスイッチが ON のとき 4 段階に調整することができます。

▶ オプティトロンメーター
ライトスイッチが OFF のとき 4 段階、ON のとき 5 段階に、それぞれ明るさを調整することができます。

■時計の作動条件

●エンジン スイッチが“ ON ”のとき

●アナログメーターはエンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にしても、約 10 分間は表示が消えません。

■時計の正時合わせについて

時間調整ボタンを短く押すと、正時に合わせることができます。

●0 ～ 29 分は切り下げられます。

●30 ～ 59 分は切り上げられます。

(例)1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。（オプティトロンメーター装着車）

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 341）

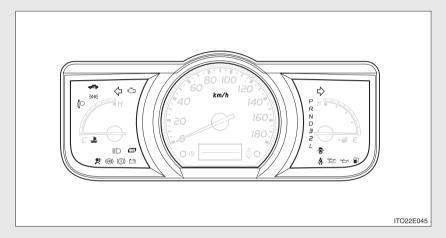
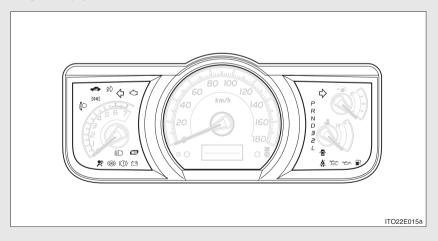
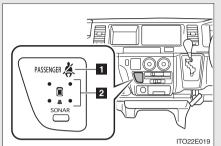
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ アナログメーター

ITO22E045

▶ オプティトロンメーター

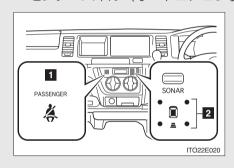
ITO22E015a

▶ センターパネル（マニュアルエアコン装着車）

1 助手席シートベルト非着用警告灯

2 クリアランスソナー表示灯*

▶ センターパネル（オートエアコン装着車）

1 助手席シートベルト非着用警告灯

2 クリアランスソナー表示灯*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 128）

尾灯表示灯
（→P. 143）

ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 143）

フロントフォグライト
表示灯*（→P. 146）

※ ECO
エコドライブインジケーターランプ（→P. 113）

セキュリティ表示灯
（→P. 76）

クリアランスソナー表示灯*
（→P. 153）

P R N D 3 2 L
シフトポジション表示灯
（→P. 126）

※ 作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 314)

※1 作動確認のためにエンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マニュアルエアコン装着車

※3 オートエアコン装着車

⚠ 警告

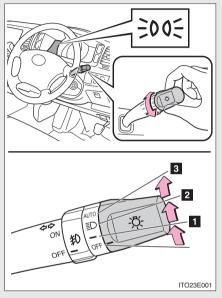
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS やSRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

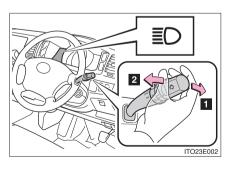
自動*または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

1 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト・車幅灯などを自動点灯・消灯（コンライト※装着車）

※ コンライトは、エンジン スイッチが " ON " のときに使用できます。

ハイビームにする

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

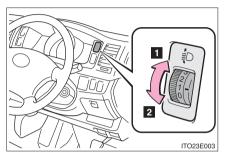
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ､ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

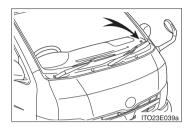
乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員の状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
10 名乗車時	2

知識

■ライトセンサー(コンライト装着車)

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能(コンライト装着車)

ライトスイッチの位置が AUTO でライトが点灯時、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にして運転席ドアを開けると、ヘッドライトと尾灯などが消灯します。再びライトを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ ON ”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライト・尾灯が点灯している状態でエンジン スイッチからキーを抜いて運転席ドアを開けると、ライト類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。
(コンライト装着車は、ライトスイッチの位置がAUTO以外の場合に作動します)

■オートレベリングシステム(ディスチャージヘッドライト装着車)

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

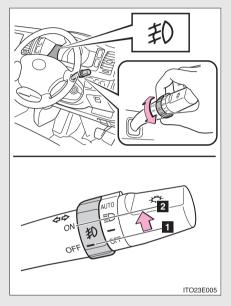
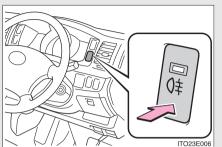
フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグライトスイッチ*

1 消灯する

2 点灯する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶リヤフォグライトスイッチ*

ON ／ OFF を切りかえる

作動中は作動表示灯が点灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：ヘッドライトまたはフロントフォグライト*が点灯しているときに使用できます。

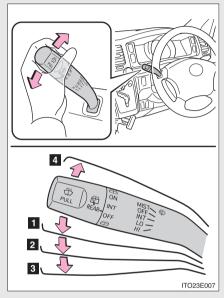
■リヤフォグライト*について

- リヤフォグライトが点灯しているときは、リヤフォグライトスイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

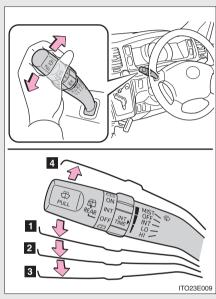
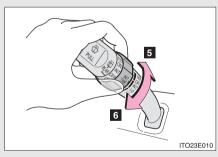
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

▶ 間欠式ワイパー

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

INT を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

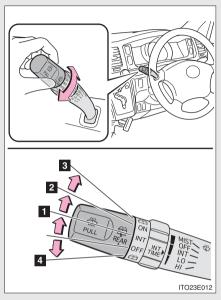
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーの端をまわして、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動（INT）
2 通常作動（ON）
3 ウォッシャー液を出す（ワイパー作動中）
4 ウォッシャー液を出す（ワイパー停止中）

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

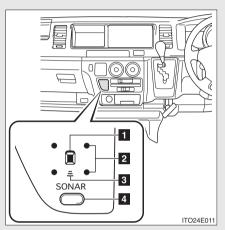
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

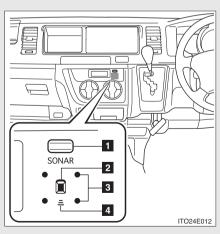
■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

クリアランスソナー＆バックソナー*

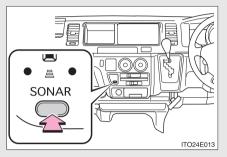
クリアランスソナー＆バックソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、インストルメントパネルにある表示灯とブザー音で運転者にお知らせします。

▶ マニュアルエアコン装着車

1 作動表示
2 クリアランスソナー表示
3 バックソナー表示
4 メインスイッチ

▶ オートエアコン装着車

1 メインスイッチ
2 作動表示
3 クリアランスソナー表示
4 バックソナー表示

*：車両型式で異なる装備やオプション装備

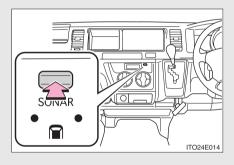
■ 使用するときは

▶ マニュアルエアコン装着車

メインスイッチを押す

作動表示が点灯します。

同時に、約 1 秒間クリアランスソナー表示・バックソナー表示が点灯し、ブザーが鳴ります。

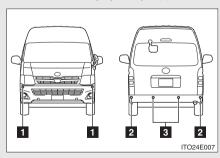
再度押すと解除され、作動表示が消灯します。

▶ オートエアコン装着車

メインスイッチを押す

作動表示が点灯します。

同時に、約 1 秒間クリアランスソナー表示・バックソナー表示が点灯し、ブザーが鳴ります。

再度押すと解除され、作動表示が消灯します。

■ センサーの位置・種類

1 フロントコーナーセンサー
2 リヤコーナーセンサー
3 バックセンサー

障害物に近付いたときの表示灯・ブザー音の変化

クリアランスソナー＆バックソナーが作動したとき、障害物と車両とのおおよその距離を表示灯・ブザー音の変化でお知らせします。

■ コーナーセンサー

障害物までのおおよその距離	距離表示	ブザー音
約 50 ～ 37.5 cm	（点滅）	ピッピッピッ（断続音）
約 37.5 ～ 25 cm	（速い点滅）	ピピピピ（速い断続音）
約 25 cm 以下	（点灯）	ピー（連続音）

■ バックセンサー

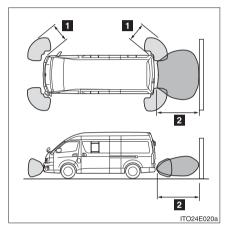
障害物までの おおよその距離	距離表示	ブザー音
約 150 ～ 60cm	(遅い点滅)	ピッ　ピッ (遅い断続音)
約 60 ～ 45cm	(点滅)	ピッピッピッ (断続音)
約 45 ～ 35cm	(速い点滅)	ピピピピ (速い断続音)
約 35cm 以下	(点灯)	ピー (連続音)

障害物を複数箇所で同時に感知したとき

障害物を複数箇所で同時に感知したときは、次のようにブザー音がかわります。

- 感知できる最も近い領域に障害物がある（ブザー連続音作動中）とき、他の部位で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ ピー」をくり返します。
- 感知できる最も近い領域に障害物がある（ブザー連続音作動中）とき、他の部位でもブザー連続音作動領域に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」をくり返します。

障害物を感知できる範囲

感知できる範囲は次のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。
障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや感知できないことがあります。

1 約 50cm
2 約 150cm

知識

■作動条件

メインスイッチが ON で、それぞれ次の条件がすべて満たされているときに作動します。

▶ フロントコーナーセンサー：

●エンジン スイッチが“ ON ”のとき

●シフトレバーが P 以外にあるとき

●車両の速度が約 10km/h 以下のとき

▶ リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

●エンジン スイッチが“ ON ”のとき

●シフトレバーが R にあるとき

■クリアランスソナー＆バックソナーの異常表示・警報

障害物を感知していないときに、ソナーの異常が発生した場合は、クリアランスソナー表示灯が点滅すると同時に、異常を知らせるブザーが約 7 秒間鳴ります。（→P. 315, 316）
いったん異常が検知されると、エンジン スイッチが“ ON ”、およびメインスイッチ（→P. 153）が ON のとき、異常が解消されるまで常に異常表示されたままになります。

■オーディオ（装着車のみ）・エアコンの使用時は

音楽やファンの音などにより、クリアランスソナー＆バックソナーのブザー音が聞きとりづらくなる場合があります。

警告

■使用時の注意

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- ●ソナーの感知範囲・作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。（また、制動距離は雨・砂利などの路面状況により変化するため注意してください）
  - ・ソナーの感知範囲は車両コーナー部と後部のバンパー周辺に限られます。
  - ・障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。
  - ・障害物の感知後、表示灯が作動してブザーが鳴るまでに多少時間がかかります。極低速走行時でも、表示灯が作動してブザーが鳴る前に、障害物まで約 25 cm 以内（バックソナーは約 35 cm 以内）に接近するおそれがあります。
- ●ソナーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。クリアランスソナー ＆ バックソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●異常表示（→P. 315, 316）が出ている場合、まずセンサーの状態を確認してください。氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナー&バックソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- ●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- ●センサーを手などでふさいだとき
- ●炎天下や寒冷時
- ●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- ●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- ●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ●車両姿勢が大きく傾いたとき
- ●市販のフェンダーポール・無線機アンテナを車に付けたとき
- ●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- ●標識などの物体によっては感知距離が短くなります。
- ●バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- ●センサーに障害物が近付きすぎたとき
- ●バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- ●けん引フックを取り付けたとき
- ●トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

警告

■正確に感知できないことがある障害物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■使用時の注意

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●メインスイッチを ON にしてもブザーが鳴らないとき

●障害物を感知していない状態で、クリアランスソナー表示・バックソナー表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

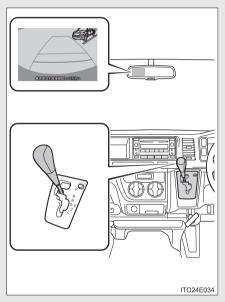
●ブザー音がしないのにクリアランスソナー表示・バックソナー表示が点灯したままのとき

■洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックモニター*

車両後方の映像とガイド線をモニター画面に映し出し、駐車時などの後退操作を補助する装置です。

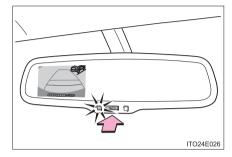
本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、シフトレバーを R にすると、バックモニターの画面が表示されます。

次のとき、バックモニターの画面が解除されます。

- シフトレバーをR以外にしたとき
- バックモニターの画面を表示して、5 分が経過したとき

＊：車両型式で異なる装備やオプション装備

画面の表示／非表示

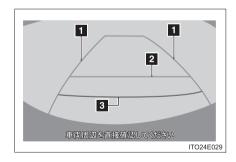
ITO24E026

バックモニターの画面が表示されているとき、インナーミラーの AUTO ボタンを押して、画面の ON モードと OFF モードを切り替えることができます。

ON モード：画面が表示され、緑色のインジケーターが点灯します。

OFF モード：画面が非表示になり、橙色のインジケーターが点灯します。

エンジン スイッチを“ LOCK ”から“ ON ”にすると、バックモニターの画面は ON モードになります。

画面の見方について

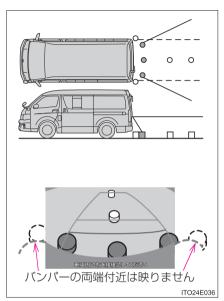
ITO24E029

ガイド線は画面に表示されます。ガイド線は車両や路面の状況により、誤差を生じることがあります。

1 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
実際の車幅より広く表示します。

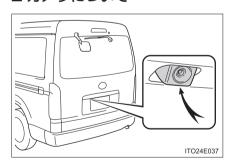
2 距離目安線（青色）
バンパー後端から約 1m 先を示します。

3 距離目安線（赤色）
バンパー後端から約 0.5m 先を示します。

バックモニターの注意点について

■ 画面に映る範囲について

バックモニターは、バンパー後端から車の後方が映ります。

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- カメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

■ カメラについて

バックモニターのカメラは、ナンバープレートの左上側にあります。

● カメラのお手入れについて

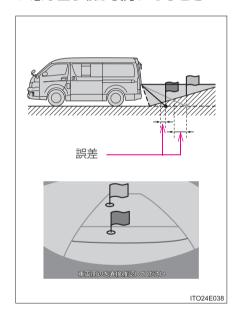
カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像を見ることができません。水滴・雪・泥などの汚れが付着したときは水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤で洗い流してください。

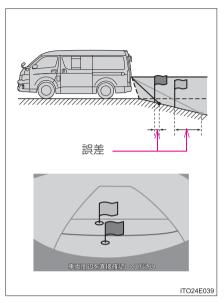
■ 画面と実際の路面との誤差について

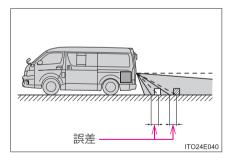
距離目安線や車幅延長線と駐車スペースの区画線が画面では平行に見えても、実際は平行ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

車幅延長線と駐車スペース左右の区画線の間隔が画面では左右均等に見えても、実際は左右均等ではないことがあります。必ず直接確かめてください。

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

● 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。

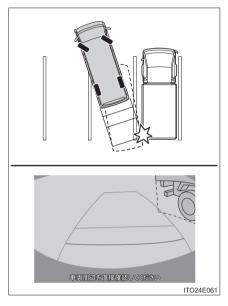
● 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。

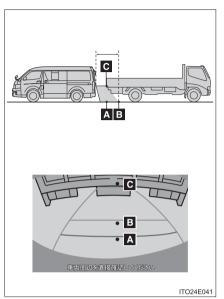
● 車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

■ 立体物が近くにあるとき

車幅延長線・距離目安線は路面に対して表示されているため、立体物の距離を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことにご注意ください。

● 車幅延長線について

ITO24E061

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が車幅延長線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

● 距離目安線について

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により B の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には A の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では A、B、C の順に近く見えますが、実際の距離は A と C は同じ距離で､B は A と C より遠い距離にあります。

知っておいていただきたいこと

■ 故障とお考えになる前に

下記のような症状になったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。
処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
画面が見にくい	･夜間など暗いところで使用するとき ･レンズ付近の温度が高い、または低いとき ･外気温が低いとき ･カメラに水滴が付いたとき ･雨天時など湿度が高いとき ･カメラ付近に異物（泥など）が付いたとき ･カメラにすり傷が付いたとき ･白壁や明るいものが画面に映り込んだとき ･太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたったとき ･蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用したとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。 （カメラ及びその周辺環境が改善されてから、バックモニターをご使用ください）
画面が不鮮明	カメラのレンズに水滴・雪・泥など異物や汚れが付着しているとき	カメラのレンズを水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤で洗い流してください。

症状	考えられる原因	処置
画面がずれている	カメラ部に強い衝撃が加わったとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
ガイド線が大きくずれる	カメラの位置がずれているとき	トヨタ販売店で点検を受けてください。
	・車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど） ・傾斜地で使用するとき	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

知識

■バックモニターを使用するときは

インナーミラーの防眩機能が解除されます。

■バックモニターの設定について

エンジン スイッチが“ ON ”かつシフトレバーが R のとき、下記の設定ができます。

●画面を継続的に非表示にするには

AUTO ボタンを 12 秒以上押し続けると、次のように画面が切替り、画面が継続的に非表示になります。

・ ボタンを押し続けると、画面が非表示になり、約 6 秒後にいったん画面が表示されます。それから約 6 秒後に画面が非表示になり、インジケーターが橙色に点灯します。
・ エンジン スイッチを“ LOCK ”から“ ON ”にしても画面が表示されなくなります。

●画面を表示するには

AUTO ボタンを押します。（インジケーターが緑色に点灯します）

警告

■バックモニターを使用するときは

後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックモニターは、後退操作を補助する装置です。バックモニターを過信しないでください。
とくに周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。

●画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

●後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。

●駐車時の道路事情・路面や車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。十分理解したうえで、バックモニターをご使用ください。

●駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから後退してください。

●次のような状況では、使用しないでください。

・雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
・バックドアが完全に閉まっていないとき
・カーブや坂道など平坦・まっすぐではない道路

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れたりすることがあります。とくに動いている物の映像が歪む、または画面から見えなくなることがあります。

●タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。（→ P. 166）

警告

■駐車するとき

●乗車人数・積載量などにより、画面のガイド線の示す位置は変わります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

注意

■カメラの取り扱いについて

●バックモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

知識

■ABS・ブレーキアシストの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪で覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、指定のメーカー・ブランド・トレッドパターン(溝模様)のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 352)
異なったタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

● できるだけ荷物はラゲージスペース、またはシートをスペースアップした場所※に積む

● 荷物が安全な位置に置かれているか確認する

● 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む

● 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

※スペースアップシート装着車のみ

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

警告

■**荷物を積むときは**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージスペース、またはシートをスペースアップした場所※に積んでください。

※スペースアップシート装着車のみ

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - ・運転席足元
  - ・助手席・リヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- シート以外の場所には、絶対に人を乗せて走行しないでください。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 260）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。（→P. 319）

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

⚠警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず４輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル・急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

マニュアルエアコン*

エアコンの設定

■ 基本設定

手順 1 ファンを作動開始する、または風量を調整するには、ファン調整レバーを右（増）か左（減）へ操作する

風量は 4 段階に調整できます。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには A/C を押します。（押すたびに機能の ON・OFF が切りかわります）

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

手順 2 温度をかえるには、温度調整ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわす

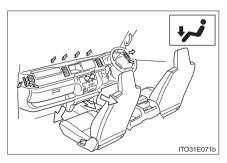
ノブの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

ITO31E069a

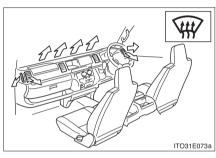
上半身に送風

ITO31E070a

上半身と足元に送風

ITO31E071b

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

内外気切りかえレバーを の位置にして使用します。

ガラスの曇りを取る

内外気切りかえレバーを の位置にして使用します。

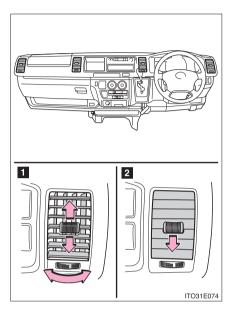
A/C を押してエアコン（冷房・除湿機能）を ON にすると、曇りが早く取れます。

■外気導入・内気循環を切りかえるには

内外気切りかえレバーを左右に動かす

内気循環にするには、レバーの位置を にします。

外気導入にするには、レバーの位置を にします。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

ノブ・ダイヤルを操作して、上下左右に風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで下に動かします。

知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口であり、温度調整の設定によっては、足元には、上半身に送風される風よりも暖められた風が送風されます。

■外気温度が 0 ℃以下のとき

を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■PTC ヒーター*

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 温度調整ダイヤルをいちばん右（暖）にまわしたとき
- エンジン冷間時

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

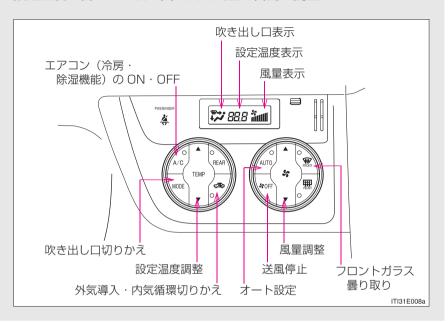
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

オートエアコン＊

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定で使うとき

手順 1 を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには を押します。（押すたびに機能の ON・OFF が切りかわります）

手順 2 設定温度を上げるときは の“▲”側を、下げるときは“▼”側を押す

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ 基本設定

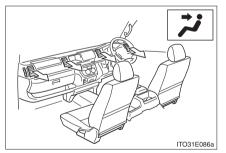
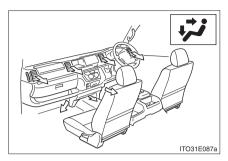
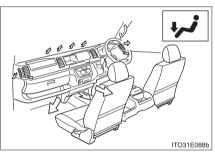
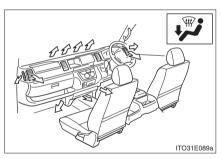
手順 1 風量をかえるには、の“▲”（増）側か“▼”（減）側を押す

エアコン（冷房・除湿機能）の ON・OFF を切りかえるには を押します。（押すたびに機能の ON・OFF が切りかわります）

送風を止めるときは を押します。

手順 2 設定温度をかえるには、温度を上げるときは の“▲”側を、下げるときは“▼”側を押す

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。
選択した吹き出し口に従って次のように送風されます。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

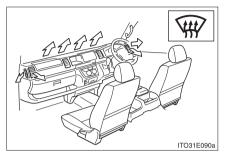
■外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

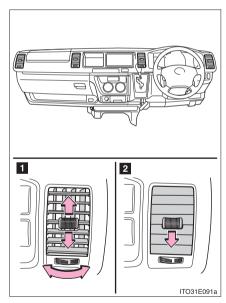
フロントガラスの曇りを取るには

ITO31E090a

 を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度 を押すと、前のモードにもどります。

風向きの調整・吹き出し口の開閉

ITO31E091a

1 風向きの調整

ノブ・ダイヤルを操作して、上下左右に風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで下に動かします。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

● を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

外気温によって、自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■吹き出し口を [icon] にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口のため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■PTC ヒーター*

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

●ファンが作動しているとき

●最大暖房時

●エンジン冷間時

●外気温が低いとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤクーラー

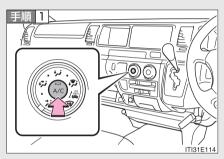
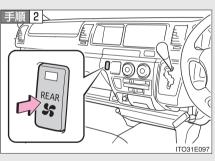
後部座席付近を冷房することができます。

■ リヤクーラーを使用する前に

フロントエアコンのエアコン（冷房・除湿機能）スイッチが ON になっていることを確認し、リヤクーラーメインスイッチを ON にしてください。

▶ マニュアルエアコン装着車

手順 1

ITI31E114

A/C が ON になっていることを確認する（→P. 184）

A/C が OFF のときは、リヤクーラーの冷房・除湿機能が作動せず、送風のみとなります。

手順 2

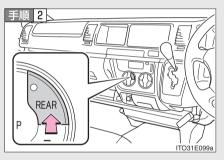
ITO31E097

REAR を押す

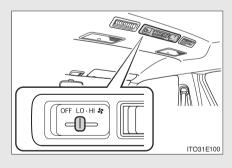
押すたびにメインスイッチの ON・OFF が切りかわります。
（ON のときは作動表示灯が点灯します）

▶ オートエアコン装着車

が ON になっていることを確認する（→P. 190）

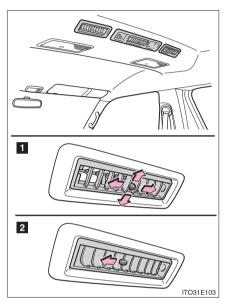
A/C が OFF のときは、リヤクーラーの冷房・除湿機能が作動せず、送風のみとなります。

REAR を押す

押すたびにメインスイッチの ON・OFF が切りかわります。
（ON のときは作動表示灯が点灯します）

■ リヤクーラーを使用するには

ファン調整レバーを右（増）か左（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。

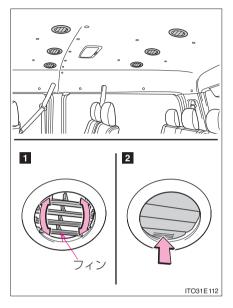
風向きの調整と吹き出し口の開閉

■ 操作部

1 風向きの調整

ノブを上下左右に動かして、風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、ノブをいっぱいまで左に動かします。

■天井部

1 風向きの調整

吹き出し口を動かして、風向きを調整します。

2 吹き出し口の開閉

閉めるときは、吹き出し口のフィンを閉じる方向に動かします。
開けるときは、矢印の位置を押します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤクーラーを使用しないでください。

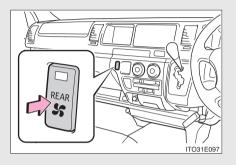
リヤヒーター

車内の後方部分を暖房することができます。

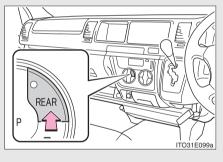
■ リヤヒーターを使用する前に

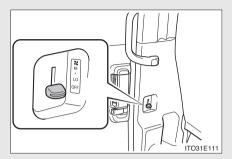
リヤヒーターメインスイッチを ON にしてください。

▶ マニュアルエアコン装着車

 を押す

押すたびにメインスイッチの ON･OFF が切りかわります。(ON のときは作動表示灯が点灯します)

▶ オートエアコン装着車

 を押す

押すたびにメインスイッチの ON･OFF が切りかわります。(ON のときは作動表示灯が点灯します)

■ リヤヒーターを使用するには

ファン調整レバーを上（増）か下（減）に操作する

送風を止めるときは、レバーをOFF の位置にします。

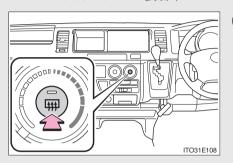
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

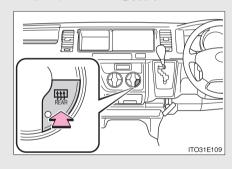
エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにご使用ください。

▶ マニュアルエアコン装着車

ON ／ OFF を切りかえる

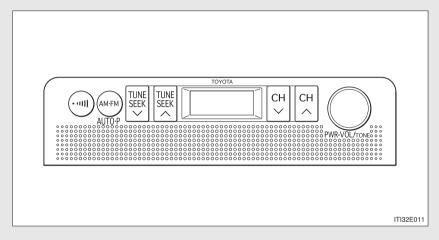
リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

▶ オートエアコン装着車

ON ／ OFF を切りかえる

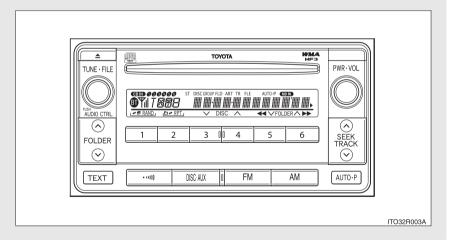
リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

オーディオの種類

▶AM ／ FM ラジオ＊

▶CD プレーヤー ＆ AM ／ FM ラジオ＊

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

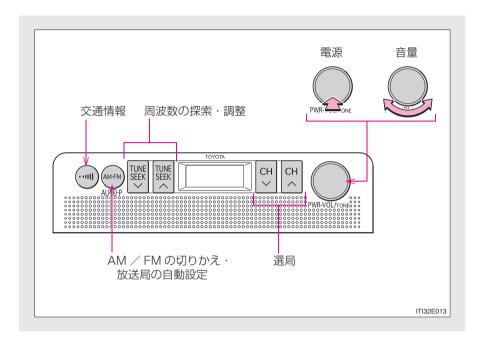
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方（AM ／ FM ラジオ）

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 TUNE SEEK ∧（高い周波数）、または TUNE SEEK ∨（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 CH ∧ または CH ∨ を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

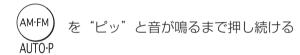
チャンネルの表示が点滅します。

手順 3 [CH ∧] または [CH ∨] を 押して記憶させたいチャンネルを選択する

AM・FM 各 6 局まで記憶させることができます。

手順 4 [CH ∧] または [CH ∨] を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

点滅していたチャンネル表示が通常表示にもどります。

■ 自動設定

を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

受信感度のよい周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると“ ピッピッ ”と音が鳴ります。

交通情報を受信する

を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■交通情報について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき、 を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を変更することができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

● を押してラジオを受信しているときは、TUNE SEEK ∨ TUNE SEEK ∧ ・ CH ∨ CH ∧ を操作しても周波数は切りかわりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは

CH ∨ CH ∧ に設定されていた放送局が消去されます。

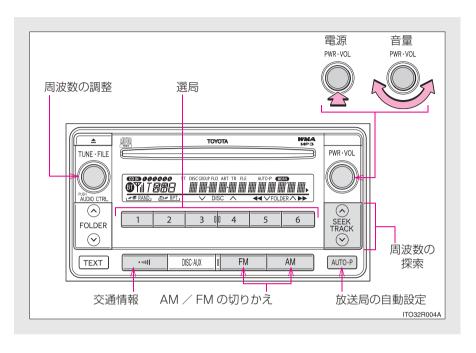
■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。

●放送局を自動設定しているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●アンテナについては、P. 227 を参照してください。

ラジオの使い方（CD プレーヤー & AM ／ FM ラジオ）

電源
音量
周波数の調整
選局
周波数の探索
交通情報
AM ／ FM の切りかえ
放送局の自動設定
ITO32R004A

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1

をまわす、または

の“ ∧ ”（高い周波数）側、または“ V ”（低い周波数）側を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ [1] ～ [6] を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

AM・FM 各 6 局まで記憶させることができます。

■ 自動設定

[AUTO・P] を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

受信感度のよい周波数が低い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると、“ピッピッ”と音が鳴ります。

交通情報を受信する

[·ıııl] を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■交通情報について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき、[·ıııl] を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を変更することができます。

●[·ıııl] を押してラジオを受信しているときは、

・

・[1] ～ [6] ・ [AUTO・P] を操作しても周波数は切りかわりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは

[1] ～ [6] に設定されていた放送局が消去されます。

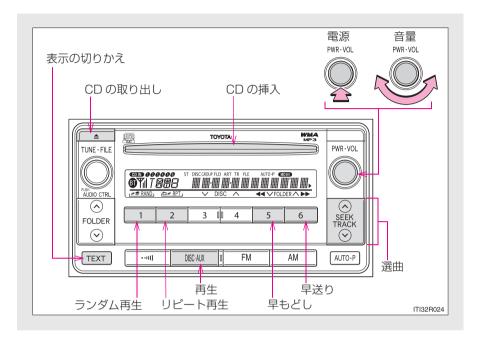
■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合があります。

●放送局を自動設定しているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●アンテナについては、P. 227 を参照してください。

CD プレーヤーの使い方（CD プレーヤー & AM ／ FM ラジオ）

電源
音量
PWR･VOL
表示の切りかえ
CD の取り出し
CD の挿入
TOYOTA
WMA MP3
TUNE･FILE
PUSH AUDIO CTRL
FOLDER
PWR･VOL
SEEK TRACK
1 2 3 4 5 6
TEXT
DISC･AUX
FM
AM
AUTO･P
選曲
ランダム再生
リピート再生
再生
早もどし
早送り
ITI32R024

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

⏏ を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

の“ ∧ ”（次曲）側、または“ V ”（前曲）側を押して、聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし・早送りする

早もどしするときは [5] (◀◀) を、早送りするときは、 [6] (▶▶) を押し続ける

リピート（RPT）再生する

[2] （RPT）を押す

ランダム（RAND）再生する

[1] （RAND）を押す

表示を切りかえる

[TEXT] を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、 TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作しないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

“ ERROR ”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

■使用できない CD・アダプター

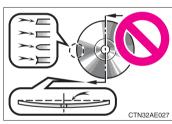
次のような CD・8cmCD アダプター・DualDisc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

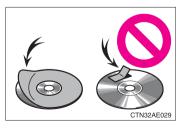
CTN32AE026

●直径12cm または8cmの円形以外のCD

CTN32AE027

●低品質または変形している CD

CTN32AE028

●記録部分が透明または半透明の CD

CTN32AE029

●セロハンテープ・シール・CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

⚠注意

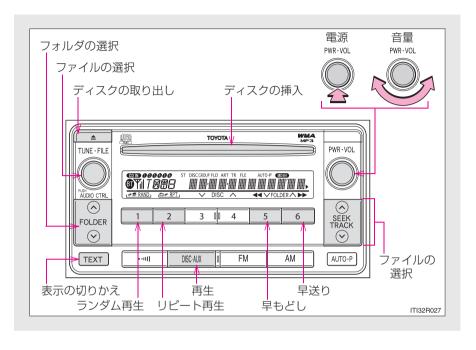
■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない

ITO32R021

- 一度に２枚以上の CD を挿入しない

MP3 ／ WMA ディスクの聞き方（CD プレーヤー & AM ／ FM ラジオ）

MP3 ／ WMA ディスクを挿入する、または取り出す

挿入口にディスクを 1 枚挿入する。ディスクを取り出すときは ⏏ を押す

早もどし・早送りする

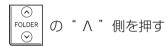
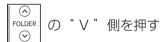
早もどしするときは 5（◀◀）を、早送りするときは 6（▶▶）を押し続ける

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる

■ 次フォルダを選ぶ

の“ ∧ ”側を押す

■ 前フォルダを選ぶ

の“ V ”側を押す

最初のフォルダにもどるには、

の“ V ”側を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けます。

ファイルを選択する

をまわして、または

の“ ∧ ”（次ファイル）側、または“ V ”（前ファイル）側を押して、聞きたいファイルを探す

リピート（RPT）再生する

■ ファイルをくり返して再生する

2 （RPT）を押す

■ フォルダをくり返して再生する

2 （RPT）を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

ランダム（RAND）再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生する

1 （RAND）を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生する

1 （RAND）を“ピッ”と音が鳴るまで押し続ける

表示を切りかえる

[TEXT] を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ） → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
フォルダ番号・フォルダタイトル・ファイル名などが 13 文字以上の場合は、[TEXT] を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
[TEXT] をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作しないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度 [1] （RAND）または [2] （RPT）を押します。

■エラー表示

“ ERROR ”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

“ NO MUSIC ”：ディスク内に MP3 ／ WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■ディスクをプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

ディスクが傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3 ／ WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3 ／ WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・ 対応規格
  WMA Ver.7、8、9
・ 対応サンプリング周波数
  32、44.1、48 (kHz)
・ 対応ビットレート
  Ver.7、8： CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
  Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
  ※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて

MP3 ／ WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは次のとおりです。

・ ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれたMP3／WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

・ 最大ディレクトリ階層：8 階層
・ 最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・ 最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について

MP3／WMA と認識し再生するファイルは、MP3／WMA の拡張子 “.mp3” または “.wma” が付いたものだけです。

●マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3 ／ WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ／ WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します）

WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3 ／ WMA の再生について

MP3 ／ WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3 ／ WMA ファイルを再生します。

ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3 ／ WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。

音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について

MP3 ／ WMA 以外のファイルに“.mp3”または“.wma”の拡張子が付いていると、MP3 ／ WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

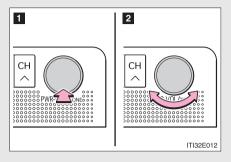
・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3 ／ WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3 ／ WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

注意

■使用できない CD・アダプター（→P. 215）

■CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 216）

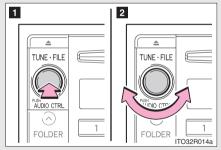
快適に聞くために

▶ AM ／ FM ラジオ

1 PWR·VOL/TONE を“ピッ”と音がするまで押し続ける

“TONE”の文字が表示部に出ます。

2 PWR·VOL/TONE をまわして、音質を調整する

左にまわすと低音が強調され、右にまわすと高音が強調されます。

▶ CD プレーヤー ＆ AM ／ FM ラジオ

1 TUNE・FILE PUSH AUDIO CTRL を押して、調整したいモードを表示させる

2 TUNE・FILE PUSH AUDIO CTRL をまわして、音質と音量バランスの設定を変更する（→P. 225）

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには（CD プレーヤー ＆ AM ／ FM ラジオ）

■ 調整モードの切りかえ

を押すごとに、次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → EQ

■ 音質・音量バランスの調整

TUNE・FILE PUSH AUDIO CTRL をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
前後音量バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
低音※	BAS	－5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	－5 ～ 5	弱	強
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大
音場	EQ	OFF	右へまわす：OFF → 1 COMPACT → 2 SEDAN → 3 MINIVAN → OFF 左へまわす：OFF → 3 MINIVAN → 2 SEDAN → 1 COMPACT → OFF	
		1　COMPACT		
		2　SEDAN		
		3　MINIVAN		

※音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーそれぞれで調整できます。

知識

■音場調整について

代表的な 3 つの室内空間［コンパクト（小）・セダン（中）・ミニバン（大）］に適した音場パターンが搭載されています。
お客様の好みに応じて、OFF を含む 4 つの音場パターンから選択することができます。

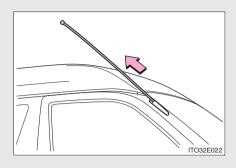
■SRS Labs, Inc. の登録商標（CD プレーヤー ＆ AM ／ FM ラジオ）

本製品は AM ラジオモードを除き、SRS Labs, Inc. の SRS FOCUS™、SRS TruBass® の技術を使用しています。

FOCUS、TruBass、SRS と 記号は、SRS Labs, Inc. の商標です。

FOCUS、TruBass 技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

SRS FOCUS™ は、最適な位置に設置されていないスピーカーからの音像を耳の位置まで持ち上げて、違和感なく自然に聴くことができます。

SRS TruBass® は、どのようなサイズのスピーカーからでも、深く豊かな低音を再生することができます。

アンテナ

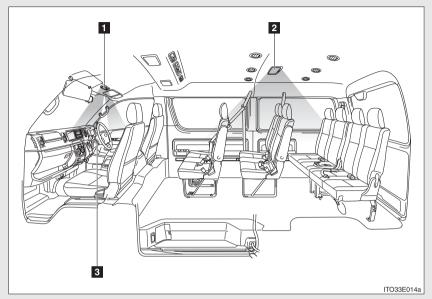
ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。

注意

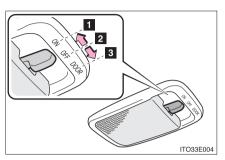
■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

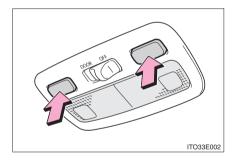
室内灯一覧

1 フロントパーソナルライト（→P. 229）
2 ルームライト（→P. 230）
3 エンジン スイッチ照明

フロントパーソナルライト（標準タイプ）

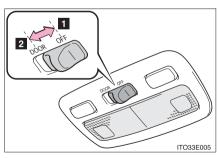
ITO33E004

1 ライトを点灯する
2 ライトを消灯する
3 ドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

フロントパーソナルライト（大型タイプ）

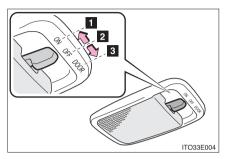
■ 独立スイッチでの操作

ITO33E002

ライトを点灯・消灯する

■ ドア連動スイッチでの操作

ITO33E005

1 ライトを消灯する
2 ドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

ルームライト（標準タイプ）

ITO33E004

1 ライトを点灯する
2 ライトを消灯する
3 スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

ルームライト（大型タイプ）

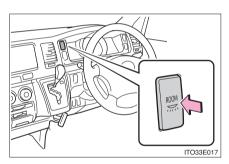
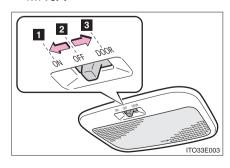
■ メインスイッチ

照明部のスイッチの位置が“ ON ”のとき、ルームライトの点灯／消灯を切りかえることができます。

ITO33E017

ON ／ OFF

■ 照明部

ITO33E003

1 メインスイッチのON ／ OFFに連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる
2 ライトを消灯する
3 スライドドアまたはバックドアの開閉作動に連動して、ライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

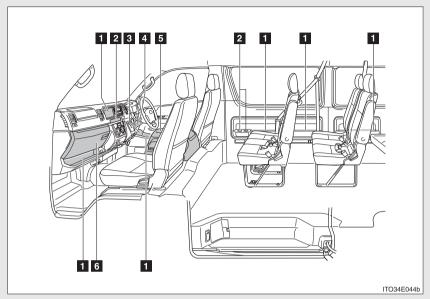
■自動消灯機能

半ドア状態で、フロントパーソナルライトスイッチ・ルームライトスイッチがドアポジションのときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ライト類を点灯しないでください。

収納装備一覧

1 オープントレイ*
2 カップホルダー*
3 ボトルホルダー
4 運転席小物入れ
5 センターコンソールボックス
6 グローブボックス

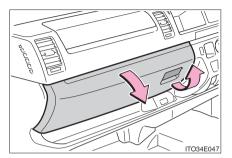
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

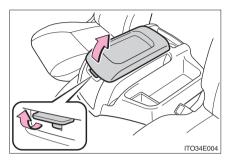
グローブボックス

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

⚠ 警告

■走行中の警告

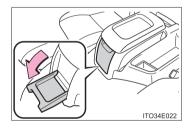
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスが体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

センターコンソールボックス

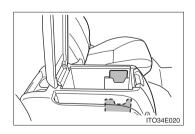
ITO34E004

センターコンソールボックスを開けるには、レバーを引き上げる

知識

■前面トレイ

ITO34E022

センターコンソールボックスの前面部分を倒すと、トレイとして使用できます。

■カードホルダー

ITO34E020

ボックス内の側面に、カードなどを収納できるホルダーがあります。

警告

■走行中の警告

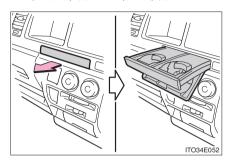
- センターコンソールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。
- 前面トレイにものを載せたまま走行しないでください。急ブレーキ時などに載せていたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

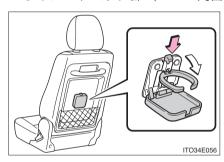
■前面トレイの破損を防ぐために

トレイの上に手をついたり、長時間ものを置いたままにしないでください。

カップホルダー

▶ インストルメントパネル

使用するときは、手前にいっぱいまで引き出す

もどすときは、トレイ部を上げてから押し込みます。

▶ リヤシートバック部（1・2列目）

使用するときは、ボタンを押して開く

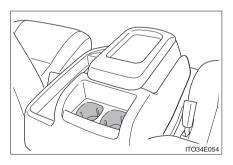
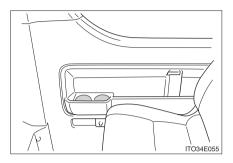
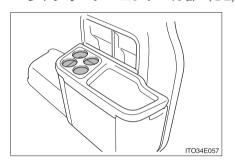
もどすときは、フタの先端を引き上げ、ロックするまで押し付けます。

▶ センターコンソール部

▶ リヤサイド部*

ITO34E055

▶ リヤクォーターコンソール部（GL）

ITO34E057

知識

■リヤクォーターコンソール部のカップホルダーについて（GL）

カップホルダー部分を取りはずすこともできます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■**カップホルダーを使わないときは（インストルメントパネル・リヤシートバック部）**

必ずもとにもどしておいてください。
急ブレーキ時などに、カップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意

■**カップホルダーについて**

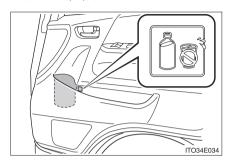
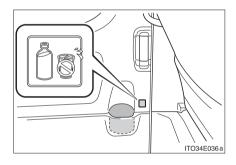
●カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

●インストルメントパネルのカップホルダーは、必ずいっぱいまで引き出して使用してください。中間位置で使用すると、走行中にカップホルダーが動いて、飲み物がこぼれるおそれがあります。

ボトルホルダー

▶ フロントドア

▶ スライドドア*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ボトルホルダーについて

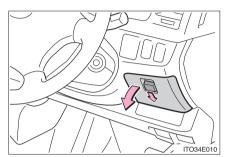
- ●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

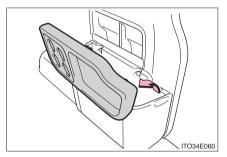
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

▶ 運転席小物入れ

ノブを押して開ける

▶ リヤクォーターコンソール部（GL）

フタを持ち上げて開く

⚠ 警告

■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

オープントレイ

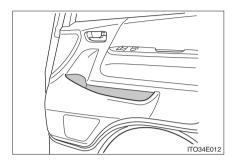
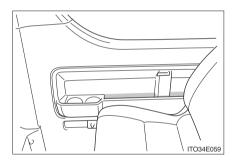
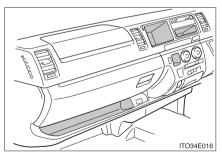
▶ フロントドア部

ITO34E012

▶ リヤサイド部*

ITO34E059

▶ インストルメントパネル※

ITO34E016

※イラストはマニュアルエアコン･AM ／ FM ラジオ装着車で代表しています。

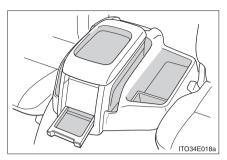
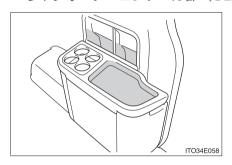
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オープントレイ

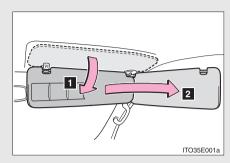
▶ センターコンソール部

ITO34E018a

▶ リヤクォーターコンソール部（GL）

ITO34E058

⚠ 警告

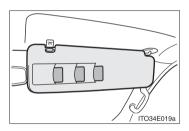
■走行中の警告

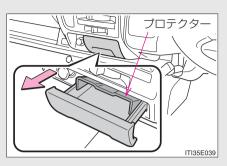
オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

知識

■3 連式カードホルダー（運転席側サンバイザー）

カード類を収納することができます。

灰皿

フタを手前に引いて開ける

取りはずすときは、プロテクターを押さえて手前に引き出します。

知識

■灰皿照明

ライトスイッチが ON のとき点灯します。

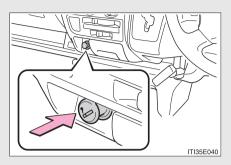
⚠警告

■使用しないときは

灰皿のフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いた灰皿が体にあたったり、灰が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■出火を防ぐために

- マッチ・タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター

シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

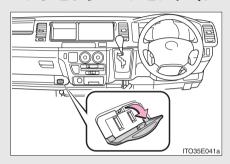
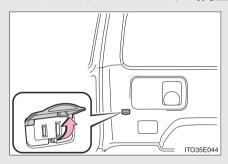
警告

■やけどや火災を防ぐために

- ●シガレットライターの金属部分にふれないでください。
- ●シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- ●トヨタ純正品以外の電気製品の電源ソケットを挿し込まないでください。ソケットが変形し、そのあとシガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

アクセサリーコンセント*

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

■ アクセサリーコンセント（フロント）

■ アクセサリーコンセント（荷室内）*

知識

■使用条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100Vで最大消費電力が100Wをこえる電気製品は使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。(エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください)

■AC アダプターを使用するときは

フタが破損するおそれがあるため、直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。

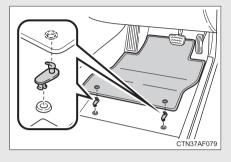
■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ(50 ／ 60Hz)のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

CTN37AF079

フロアアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

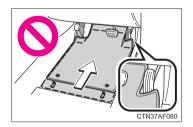
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■**運転席にフロアマットを敷くときは**

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■**運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

●アウターミラー・アンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアウターミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●バックドア内に水が入るおそれがあるため、ハイマウントストップランプ部とノズル先端の距離を十分離してください（約 50 cm 以上）。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

●クリアランスソナー＆バックソナー装着車は、センサーに直接水をあてないでください。（→P. 154）

■アルミホイール*

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使うときは（電動アウターミラー装着車）

車両前面を洗浄するブラシは作動させないでください。
フロントアンダーミラー（→P. 66）が破損するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

→P. 227

内装の手入れ

内装のお手入れについては、ここで記載されている事項にご留意ください。

車内が汚れたときは、掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取ってください。

知識

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→P. 79）
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオ*やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

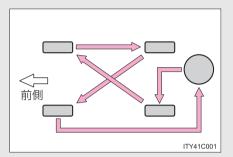
タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)をFR車は10,000kmごとに、4WD車は5,000kmごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

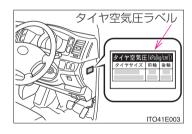
タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗(極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど)の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、インストルメントパネル横（運転席側）のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

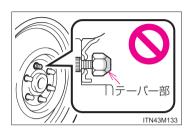
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

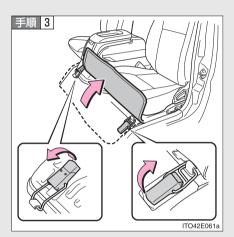
エンジン点検口

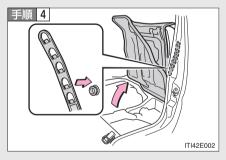
エンジンカバーを持ち上げて、エンジンルームの点検などが行えます。

■ エンジン点検口の開け方

手順 1 エンジンを停止し、シフトレバーを P にする

手順 2 パーキングブレーキを確実にかける（→P. 129）

手順 3

カバーをめくってロック（2ヶ所）を解除する

手順 4

エンジンカバーを持ち上げ、バンドをフックにかけて固定する

フックをバンドの穴にしっかりとはめ込んで、確実に固定されたことを確認してください。

手順 5 エンジン点検口を閉めるときは逆の手順で操作する

警告

■**走行前の確認**

エンジンカバーがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にシートが突然動いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

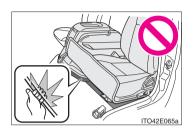
■**エンジンカバーを開けるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にエンジンカバーを開けない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- お子さまに操作させない

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■**エンジンカバーを閉めるときは**

エンジンカバーを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**エンジンカバーを開ける前の注意**

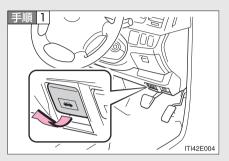
エンジンカバーを開けると、センターコンソールボックスも同時に持ち上がります。荷物の破損などを防ぐため、次のことをお守りください。

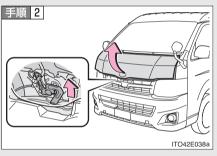
- オープントレイ上に荷物がある場合は降ろしておく
- ボックス内に壊れやすいものがある場合は取り出しておく
- カップホルダーに飲み物が置かれていないことを確認する

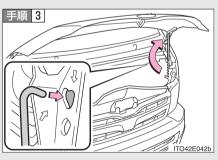
■**エンジンカバーを閉めるときは**

シートベルトを挟み込まないように注意してください。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

開ける前に、助手席側アウターミラーが復帰状態になっていることを確認してください。(電動アウターミラー装着車を除く)

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネット内を点検したあとは

ボンネット内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをボンネット内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、ボンネット内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

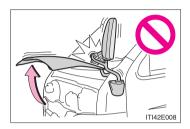
ITO42E045a

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

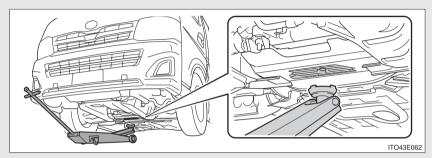
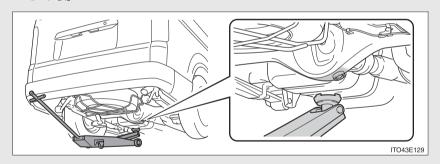
ITI42E008

●ボンネットを開ける前に、助手席側アウターミラーが復帰状態になっていることを確認してください。格納状態のままボンネットを開けると、アウターミラーが損傷するおそれがあります。(電動アウターミラー装着車を除く)

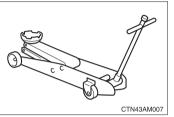
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ちあげるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■**車両を持ち上げるときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ちあげる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する。

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ちあげると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない

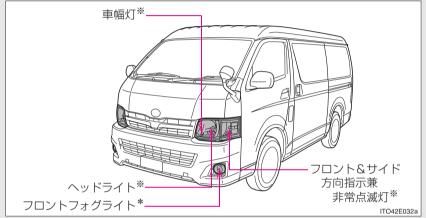
●車両を持ちあげるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

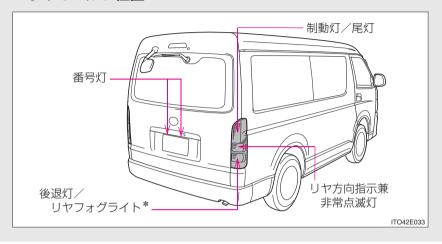
■ 電球の用意

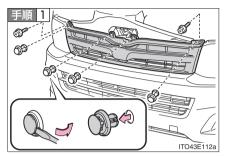
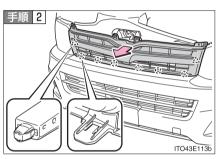
切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 353）

■ フロントのバルブ位置

※イラストは、ハロゲンヘッドライト装着車です。
ディスチャージヘッドライト装着車は装着位置・意匠が異なります。（→P. 6）

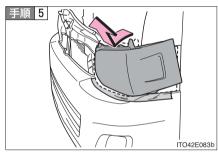
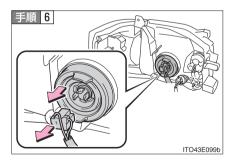
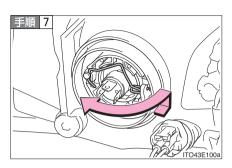
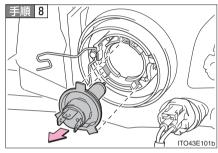
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ヘッドライト（ハロゲンヘッドライト装着車）

クリップ（4 個）とネジ（2 本）をはずす

ラジエーターグリルを手前に引いて取りはずす

手順 3 電球を交換する側のドア（運転席または助手席）を開けて作業スペースを広げ、バンパーのヘッドライト前側部分に保護テープを貼る

ネジ（2 本）をはずし、ヘッドライト本体を手前に引いて各部の固定をはずす

ヘッドライト本体を手前に引いて取りはずす

コネクターとゴムカバーを取りはずす

止め金をはずす

電球を取りはずす

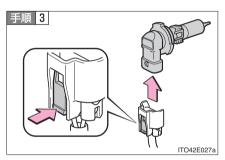
手順 9 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ヘッドライト　ハイビーム（ディスチャージヘッドライト装着車）

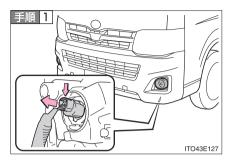
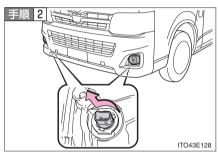
手順 1 ヘッドライト本体を取りはずす（→P. 274）

手順 2

ソケットを取りはずす

手順 3

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

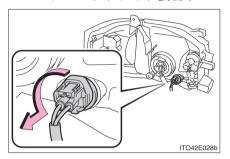
■ フロントフォグライト*

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

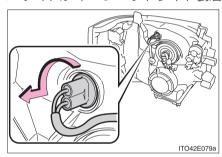
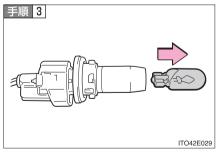
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 車幅灯

手順 1 ヘッドライト本体を取りはずす（→P. 274）

手順 2 ソケットを取りはずす

▶ ハロゲンヘッドライト装着車

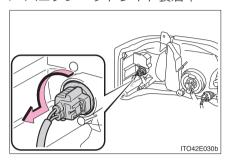
▶ ディスチャージヘッドライト装着車

手順 3 電球を取りはずす

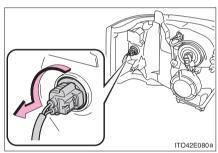
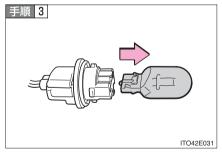
イラストはハロゲンヘッドライト装着車で代表しています。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

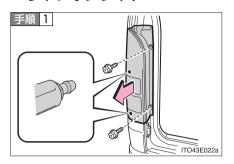
■ フロント＆サイド方向指示兼非常点滅灯

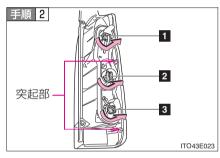
手順 1 ヘッドライト本体を取りはずす（→P. 274）

手順 2 ソケットを取りはずす

▶ ハロゲンヘッドライト装着車

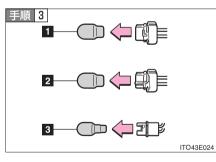
▶ ディスチャージヘッドライト装着車

手順 3 電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯・後退灯／リヤフォグライト*

ネジ（2 本）をはずし、ライト本体を手前に引き出す

コネクターケーブルを損傷しないよう、慎重に作業してください。

ソケットを取りはずす

1 制動灯／尾灯
2 リヤ方向指示兼非常点滅灯
3 後退灯／リヤフォグライト※

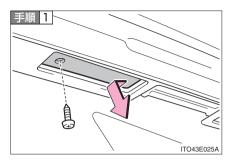
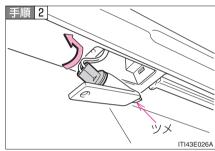
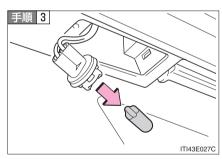
※運転席側のみに装着されます。

電球を取りはずす

1 制動灯／尾灯
2 リヤ方向指示兼非常点滅灯
3 後退灯／リヤフォグライト

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

突起部をしっかりとはめ込んでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■番号灯

交換する側のネジ（1 本）をはずし、ライト本体を引き出す

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ライト本体のツメが確実にかかっていることを確認してください。

知識

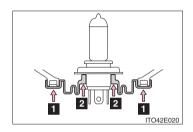
■その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

●ヘッドライトロービーム（ディスチャージヘッドライト装着車）

●ハイマウントストップライト

■ハロゲンヘッドライト*のゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

1 ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■ディスチャージヘッドライト*の作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■ハイマウントストップライトについて

ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

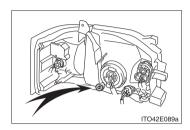
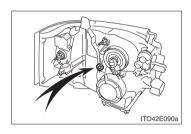
●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ライト内に水がたまっている

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

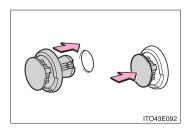
■ヘッドライト本体の固定をはずすときは

●ヘッドライトの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジにふれないでください。

▶ ハロゲンヘッドライト装着車

▶ ディスチャージヘッドライト装着車

●電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドライトの光軸の点検を受けてください。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ラジエーターグリルのクリップの取り付け

クリップを穴に挿し込み、中央部を押し込む

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ディスチャージヘッドライト*について

●交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

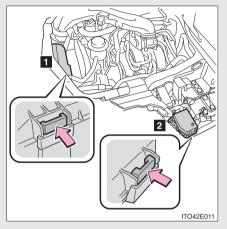
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズの点検・交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

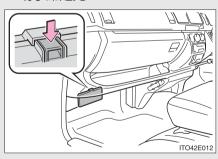
手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

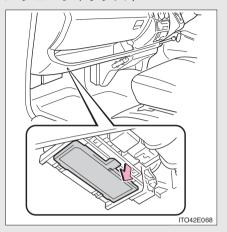
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム内

エンジン点検口（→P. 264）を開けて、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

1 中央ヒューズボックス

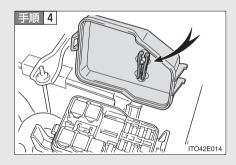
2 バッテリー横ヒューズボックス

▶ 助手席足元

ツメを押しながら、カバーを手前に引く

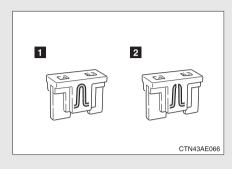
▶ グローブボックス下

ヒューズボックスカバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 289)で確認する

車の仕様により装着されていないヒューズもあります。

手順 4

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

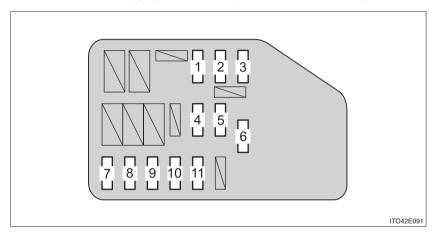
ヒューズはずしは、エンジンルーム内にある、バッテリー横ヒューズボックスのカバーに付いています。

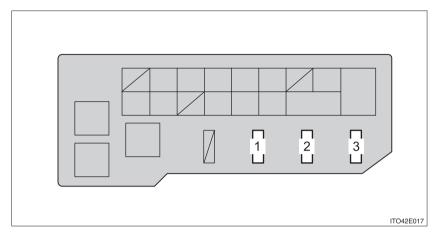
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

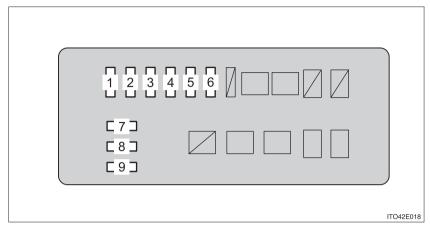
2 ヒューズ切れ

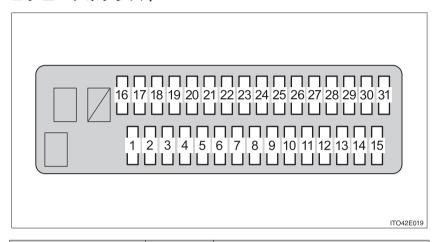
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム内（バッテリー横ヒューズボックス）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ALT-S	7.5 A	オルタネーター
2	ETCS	10 A	エンジンコントロール、ECT
3	ABS SOL	25 A	ABS
4	DOME	10 A	室内灯
5	RADIO	15 A	オーディオ
6	D. C. C	30 A	オーディオ、室内灯
7	ECU-B	10 A	エアコン、ワイヤレスドアロック、パワースライドドア
8	PSD	25 A	パワースライドドア
9	DOOR2	30 A	ドアロック
10	PWR OUTLET	15 A	—
11	TVSS	15 A	—

■ エンジンルーム内（中央ヒューズボックス）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI	20 A	エンジンコントロール、ECT
2	HAZ-HORN	15 A	非常点滅灯、ホーン
3	A ／ F	15 A	エンジンコントロール

■ 助手席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	HEAD LL	15 A	ディスチャージヘッドライト（左側）
2	HEAD RL	15 A	ディスチャージヘッドライト（右側）
3	HEAD LH	15 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）、ヘッドライトレベリング調整ダイヤル
4	HEAD RH	15 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
5	ST	7.5 A	スターター
6	A ／ C NO.3	7.5 A	エアコン
7	SPARE	25 A	予備ヒューズ
8	SPARE	15 A	予備ヒューズ
9	SPARE	10 A	予備ヒューズ

■ グローブボックス下

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	—	—	—
2	ACCL INT LCK	25 A	—（幼児バス、ウェルキャブ）
3	WIP	25 A	フロントワイパー
4	RR WIP-WSH	15 A	リヤワイパー、リヤウォッシャー
5	WSH	20 A	フロントウォッシャー
6	ECU-IG	7.5 A	シフトロックシステム、ABS、パワースライドドア、ボデーECU、自動光軸調整システム、自動防眩ミラー
7	GAUGE	10 A	EFI コンピューター、電動ファンシステム、非常点滅灯、充電系、アクセサリーコンセントメインスイッチ、助手席シートベルト非着用警告灯、シフトポジション表示灯、後退灯、リヤウインドウデフォッガー、ヒーターコントロールパネル、自動防眩ミラー
8	OBD	7.5 A	ダイアグノーシス
9	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、EFI コンピューター、ABS、シフトロックシステム、ECT

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
10	—	—	—
11	DOOR	30 A	ボデー ECU、パワーウインドウ
12	RR HTR	15 A	リヤクーラー、リヤヒーター
13	—	—	—
14	FR FOG	10 A	フロントフォグライト、フロントフォグライト表示灯
15	AM1	30 A	シガレットライター、アクセサリー、始動系
16	TAIL	10 A	尾灯、車幅灯、番号灯、フロントフォグライト、EFI コンピューター
17	PANEL	10 A	スイッチ照明
18	A ／ C	10 A	リヤヒーター、エアコン ECU
19	—	—	—
20	—	—	—
21	—	—	—
22	—	—	—
23	CIG	15 A	シガレットライター
24	ACC	7.5 A	電動格納式アウターミラー、シフトロックシステム
25	—	—	—
26	ELS	10 A	EFI コンピューター
27	AC100V	15 A	アクセサリーコンセント
28	RR FOG	15 A	リヤフォグライトスイッチ、リヤフォグライト
29	WELCAB	15 A	—（ウェルキャブ）
30	IGN	15 A	EFI コンピューター、ECT、エアバッグコンピューター
31	MET IGN	10 A	メーター

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 272）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

次の装置の初期化が必要です。

●パワースライドドア*（→P. 34）

●パワーウインドウ（→P. 69）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

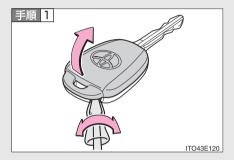
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

■ 電池交換のしかた

手順 1

ITO43E120

カバーをはずす

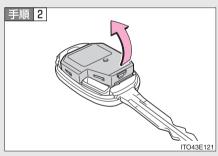
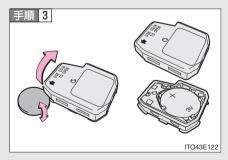
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 2

ITO43E121

モジュールを取り出す

手順 3

ITO43E122

コインなどを使用してモジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2016 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

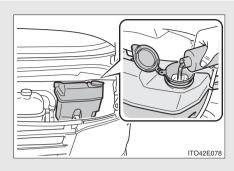
注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ●ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- ●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- ●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

ITO42E078

タンク側面から液量を確認し、不足しているときは、キャップを開けてウォッシャー液を補給する

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ラジエーターなどの高温部にかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

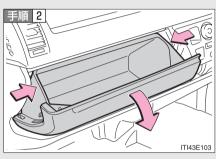
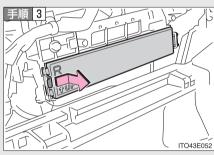
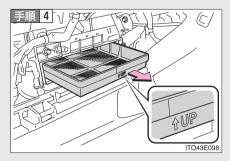
■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃

エアコン・リヤクーラーを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

■ フロントエアコン

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

グローブボックスを開き、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

エアコンフィルターを取りはずして清掃する

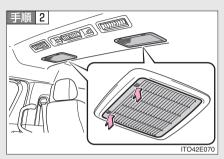
水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。

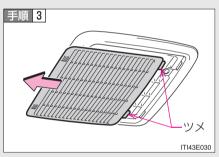
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

■ リヤクーラー

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

手順 2

図に示す位置（2ヶ所）を押して、ロックをはずす

手順 3

エアフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

エアフィルターのツメを挿し込んでから、反対側を押さえてロックします。

知識

■フィルターの清掃について

エアコン・リヤクーラーを快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃してください。

■エアコン・リヤクーラーの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

注意

■エアコン・リヤクーラーを使用するときの注意

- ●フィルターを装着せずにエアコン・リヤクーラーを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- ●フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

トラブルが起きたら

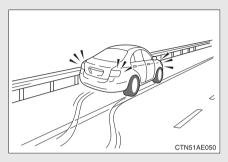
5

5-1. まず初めに

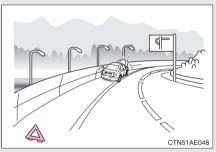
5-2. 緊急時の対処法

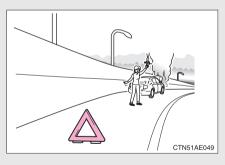
故障したときは

故障のときはすみやかに下記の指示に従ってください。

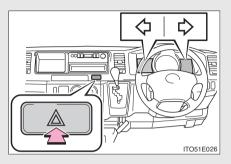
CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。（→P. 305）

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています）

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。（→P. 306）

非常点滅灯

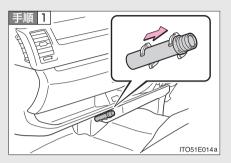
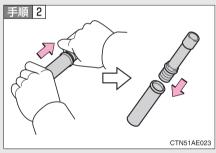
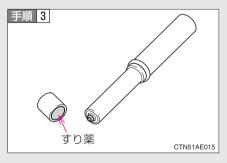
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- ●トンネル内
- ●ガソリンなど可燃物の近く

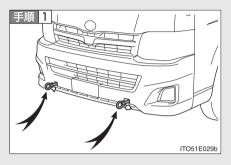
■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

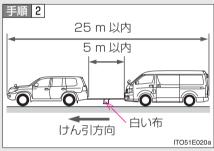
- ●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- ●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

手順 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

搭載されているけん引フックの数は、車種により異なります。

手順 2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m平方(30 cm×30 cm)以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしてください。

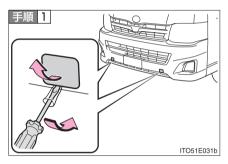
手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

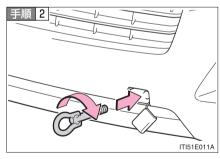
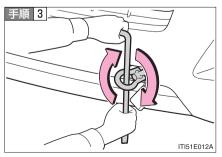
けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

けん引フックの取り付け方

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

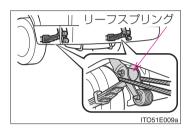
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する

ITO51E009a

緊急時、一般路上で故障した他車（故障車）※をやむを得ずけん引するときは、リーフスプリング部分にロープをかけます。

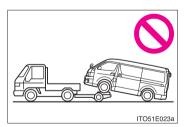
※自車より重い車をけん引することはできません。

■けん引フックの収納位置

→P. 318

警告

■車両を運搬するときは（4WD 車）

ITO51E023a

必ず 4 輪接地または、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
前輪または後輪だけ持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは、必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

⚠ 警告

■**けん引中の運転について**

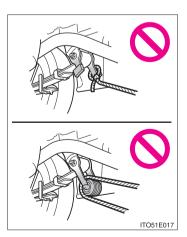
●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●エンジン スイッチを " LOCK " にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなったりします。

■**けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないと、けん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**やむを得ず他車をけん引するときは**

図のようなリーフスプリング付きの車両は、図に示す部分でのけん引は絶対にしないでください。破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない
（やむを得ずリヤのリーフスプリング部分で他車をけん引するときを除く）

上記の速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。これらの場合は、車両積載車などにより 4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■他車をけん引するときは

- 緊急時以外は行わないでください。
バンパーが傷付くおそれがあります。
- 自車より重い車をけん引することはできません。
無理にけん引すると、駆動系に悪影響を与えたり、リーフスプリング部分や車体などが損傷するおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 エンジン スイッチを " ACC " または " LOCK " にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■**エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯** ブレーキ液の不足 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS 警告灯** ABS の異常
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯＊ 自動光軸調整システムの異常
（点滅）	**クリアランスソナー表示灯＊（パターン 1）** センサーの異常 システム電源 ON 時に異常を検出すると、異常のあるセンサーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。その後は異常が解消されるまで表示されたままになります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	油量警告灯 エンジンオイル量の異常	エンジンオイルを補給する
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約10.5L以下になった	燃料を補給する
（点滅）	**クリアランスソナー表示灯＊（パターン 2）** センサー部に雪氷や泥などが付着している 汚れが付着しているセンサーの位置、および車両のマークが点滅し、警告ブザーが鳴ります。	汚れを取り除く センサー部が汚れていないのに警告された場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※） 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
PASSENGER （マニュアルエアコン装着車） PASSENGER （オートエアコン装着車）	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルトを非着用のまま、車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

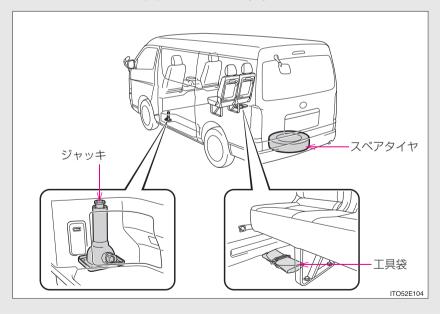
- ●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- ●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

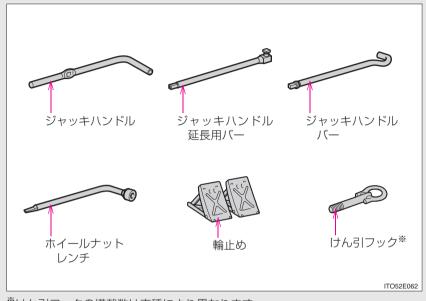
パンクしたときは

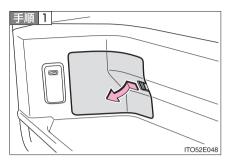
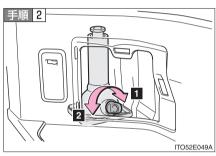
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 260 を参照してください)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする
(パワースライドドア装着車のみ：→P. 32)

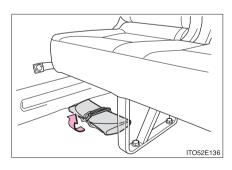
■ スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

■工具

工具袋の中に収納されています。(工具袋の取り出し方:→P. 320)

※けん引フックの搭載数は車種により異なります。

ジャッキの取り出し方

ツメを引きながら、カバーを取りはずす

1 締まる

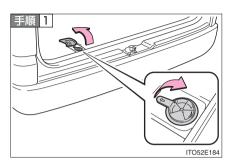
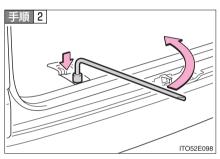
2 ゆるむ

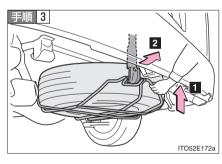
使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。

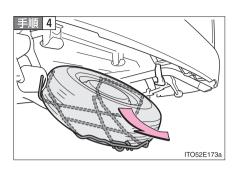
工具袋の取り出し方

固定バンドをはずす

使用後はもとの位置にもどします。

固定バンドで確実に固定してください。

スペアタイヤの取り出し方

マットの切り欠き部分をめくり、キャップをはずす

ホイールナットレンチを使って、スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。

スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ（1）、フックを手前に引いてはずす（2）

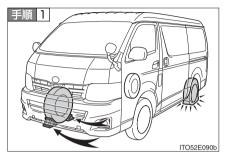
格納具が落下しないように、手でしっかり支えてください。

スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す

手順 5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

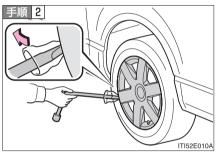
格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。

スペアタイヤを格納するときは、P. 329 を参照してください。

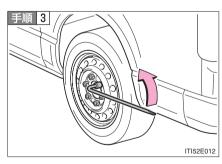
パンクしたタイヤの交換

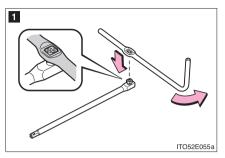
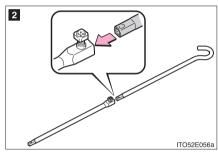
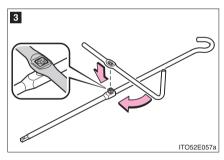
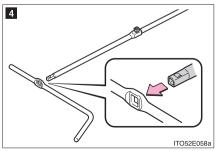
ITO52E090b

輪止めをする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪の前後
	右側	左側後輪の前後
後輪	左側	右側前輪の前後
	右側	左側前輪の前後

ITI52E010A

ホイールキャップをはずす
(スチールホイールのみ)

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

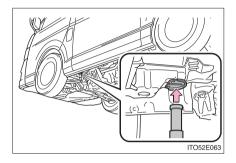
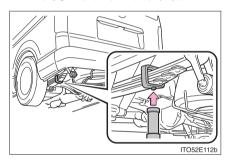
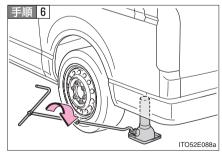
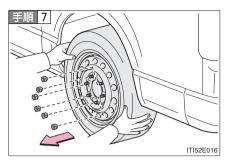
ITI52E012

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

手順 4 ジャッキハンドルを組み付ける

1 ジャッキハンドルの穴部を使い、ジャッキハンドル延長用バーの接続用ボルトをゆるめる

2 ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーとを接続する

3 ジャッキハンドルの穴部を使い、接続用ボルトを締め付ける

4 ジャッキハンドル延長用バーをジャッキハンドルの穴部に確実に挿し込む

手順 5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

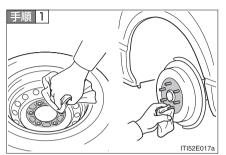
▶ フロント側ジャッキセット位置

▶ リヤ側ジャッキセット位置

手順 6

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

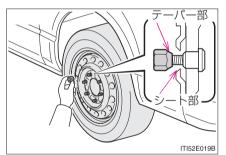
タイヤの取り付け

ITI52E017a

手順 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

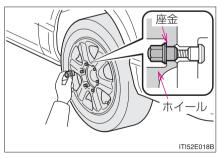
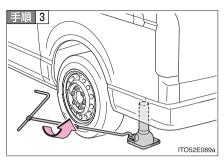
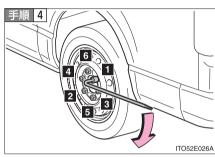
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

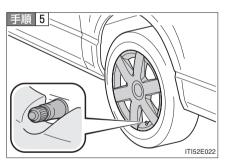
▶ スチールホイールにかえるとき

ITI52E019B

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールにかえるとき

ITI52E018B

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

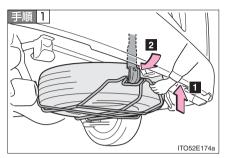
100 N・m (1020 kgf・cm)

スチールホイール装着車は、ホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

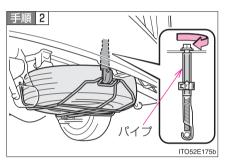
手順 6 アルミホイール装着車は、センターオーナメントを取り付ける

はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

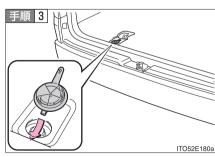
手順 7 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを格納する

スペアタイヤの格納

スペアタイヤ格納具にタイヤを載せて持ち上げ（1）、フックをかけてボルトを締め付ける（2）

フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置にかけてください。

格納具にタイヤが確実に固定されていることを確認します。

パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/4 回転以上締め付ける

締め付けトルク：

18.0 N・m (184 kgf・cm) 以上

キャップを取り付ける

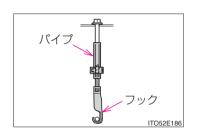
キャップのツメをフロア下に挿し込んで、ボルトの頭にキャップ下部を合わせて、キャップ上部をフロアにはめてください。
キャップ上部が確実にはまっていることを確認してください。

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→P. 352)

■スペアタイヤ格納具のフックについて

ITO52E186

スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。

■キャップについて

ITO52E182a

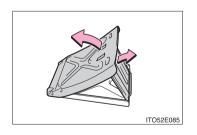
キャップ上部と下部がはずれたときは、図のようにはめ込んでから、フロアに取り付けてください。

キャップ下部のツメの位置が、キャップ上部の取っ手と反対側になるようにはめ込んでください。

■輪止めの使い方

ITO52E085

図のように展開して使用します。

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

- ●ホイールキャップ・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
  取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
- ●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ●ホイールの交換後は、すぐに 100 N・m（1020 kgf・cm）の力でナットを締める
- ●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ●約 1,000km 走行したあとに、再度ナットを締め付けてゆるみがないことを確認する
- ●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける （→P. 263）

上記のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ジャッキハンドルを使用するときは

使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。（→P. 324）

警告

■スペアタイヤを取り出すときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- スペアタイヤは、ジャッキアップする前にスペアタイヤ格納具から取りはずしておく
- スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
- スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
- スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す

■工具・ジャッキを使用したあとは

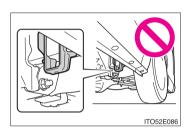
走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■車載ジャッキでジャッキアップするときは

ITO52E086

図のマウントハンガーにジャッキをかけないでください。マウントハンガーが破損するおそれがあります。

■スペアタイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。
  固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 123）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 123）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 76）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 338）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 338）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

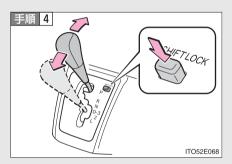
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 エンジン スイッチを“ ACC ”にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのマスターキー※から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。（→P. 20）

※マスターキーをすべて紛失してしまった場合は、コンピューターの交換が必要となります。（→P. 21）

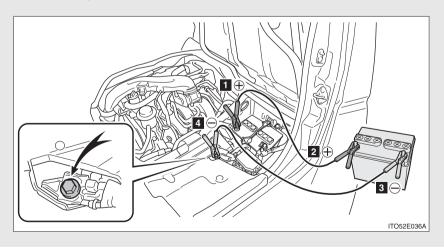
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 エンジン点検口を開ける（→P. 264）

手順 2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1. 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

パワースライドドア*とパワーウインドウの初期設定が必要です。
(→P. 34, 69)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

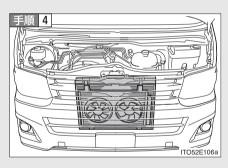
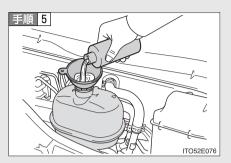
手順 2 ボンネット周辺から蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：
エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットとエンジン点検口を開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：
エンジンをかけたまま注意してボンネットとエンジン点検口を開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：
水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- ●メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●ボンネット周辺から蒸気が出る

■冷却水の補給について

冷却水の量が LOW（下限）以下になった場合は、冷却水の補給後にエア抜きが必要となるため、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ボンネット周辺から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットやエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ボンネット（→P. 267）、エンジン点検口（→P. 264）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーター、リザーバータンクが熱いうちは、ラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルペダルを踏む

警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

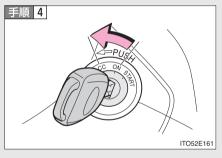
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

エンジン スイッチを“ ACC ”にして、エンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

● ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

● キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	70

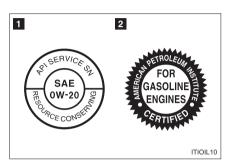
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30	5.0	5.5

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、５分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

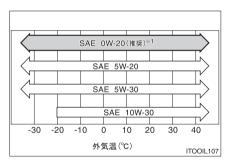
※2 0W-20 は新車時に充填されており、上表に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されており、上図に示す中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	14

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルードタイプ　T- Ⅳ	8.0

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

フロントディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	1.35

リヤディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	車種		容量 [L] （参考値）
トヨタ純正 ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	LSD なし	FR	3.25
		4WD	3.55
トヨタ純正 ハイポイドギヤオイル LSD (API GL-5 SAE 85W-90)	LSD あり		3.55

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ （API GL-3 SAE 75W-90）	1.3

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.9

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※1	120

※1 エンジン停止時に 500 N（51 kgf）の踏力をかけたときの床板（フロアパネル上面）とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ パーキングブレーキ

項目	車種	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときの ノッチ※2 数	ロング	10 ～ 16
	スーパーロング	12 ～ 18

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
3.2

タイヤ

タイヤサイズ	駆動方式	タイヤが冷えているときの空気圧　kPa(kg/cm^2)	
		前輪	後輪
195/80R15 107/105L LT	FR	325（3.25）	300（3.00）
	4WD	350（3.50）	325（3.25）

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハロゲンヘッドライト装着車 （バルブタイプ：H4） ディスチャージヘッドライト装着車 ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（バルブタイプ：D4R）	 60 ／ 55 60 35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト* （バルブタイプ：PSX26W）	26
	フロント＆サイド方向指示兼非常点滅灯	21
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 ／ 5
	後退灯	16
	番号灯	5
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
車内	フロントパーソナルライト	8
	ルームライト	8
	スライドドアステップライト	5
	灰皿照明	1.2

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

6

車両仕様

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRH214W	2TR-FE (2.7L ガソリン)	FR（後輪駆動）
TRH224W		
TRH219W		4WD（4 輪駆動）
TRH229W		

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくは、トヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

項目	機能の内容	初期設定	変更後
オートドアロック（→P. 27）	車速オートドアロック	あり	なし
	シフト連動オートドアロック	なし	あり
	シフト連動オートドアアンロック	あり	なし
	運転席ドア連動オートドアアンロック	なし	あり

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワースライドドア*	バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 34
パワーウインドウ		P. 69

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム

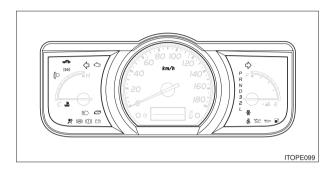
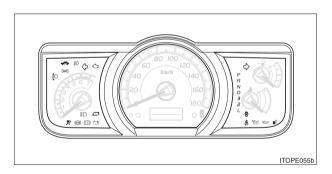
五十音順さくいん

症状別さくいん

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯が点灯・点滅した

P. 314 警告灯がついたときは

▶ アナログメーター

ITOPE099

▶ オプティトロンメーター

ITOPE055b

■警告灯一覧

※1 マニュアルエアコン装着車
※2 オートエアコン装着車

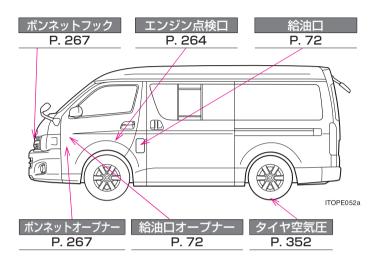
警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅をご確認ください。(→P. 314)

■警告灯が点灯・点滅していないとき、または警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 124 P. 145
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 127
	ブレーキペダルを踏んだとき	P. 116

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量（参考値）	70L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 73, 348
タイヤが冷えているときの空気圧	インストルメントパネル横（運転席側）に貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。（→P. 261）
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：5.0L オイルとフィルター交換時：5.5L
エンジンオイルの種類	トヨタキヤッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp